




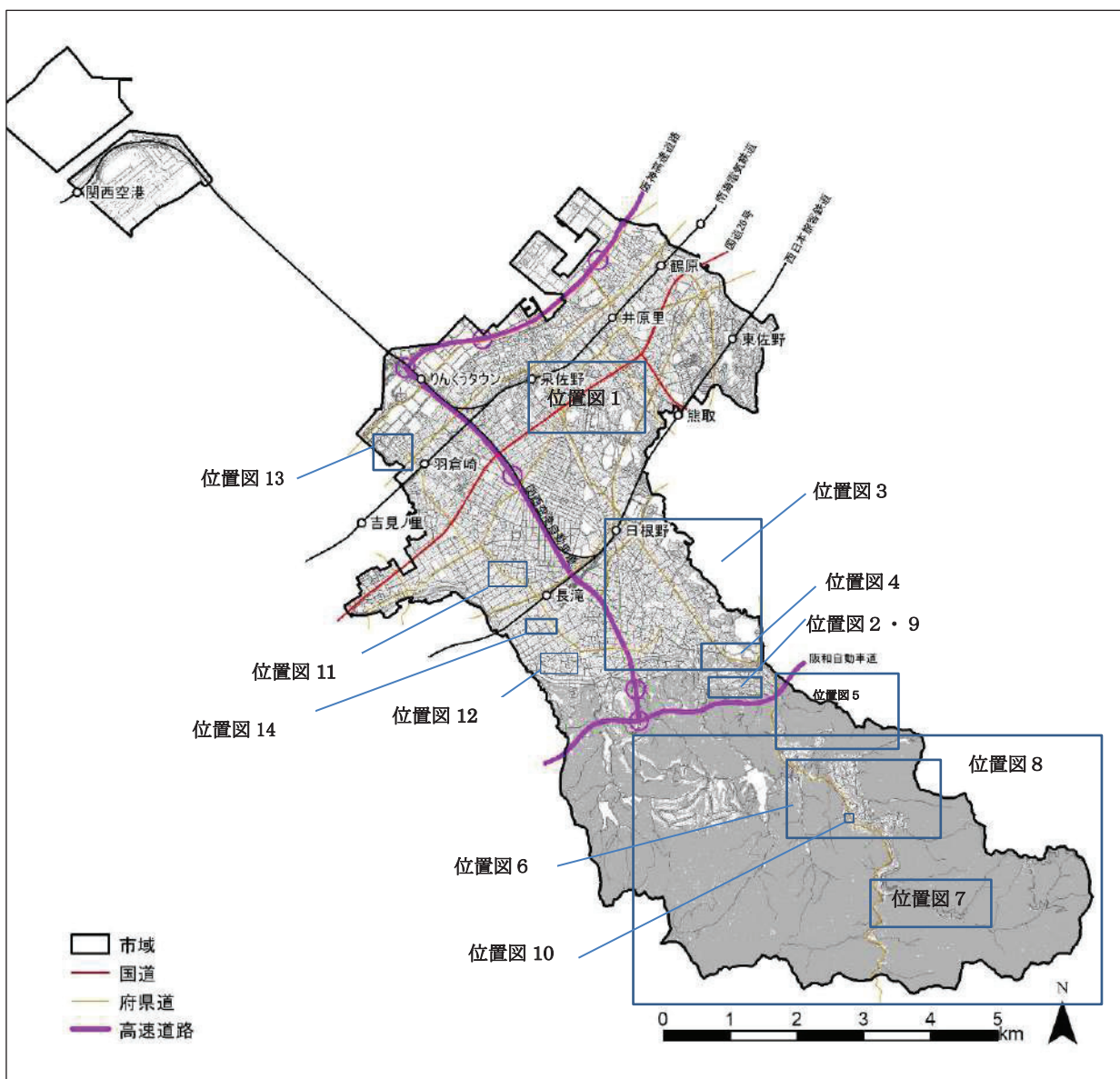


① 申請者	泉佐野市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	たびひきつけとにまいのえずがつたえるまち-ちゅうせいひねのしょうのふうけい-		
旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>今から 800 年前、泉佐野市は上級貴族、九条家の領地「日根荘<sup>ひねのしょう</sup>」でした。ここには二枚の荘園絵図と九条政基が書いた「旅引付」という日記が残されています。絵図には緑豊かな風景に、田畑に恵の水を注ぐため池や水路、社寺などが描かれ、日記には 500 年前の村の生活や人々の様子がいきいきと記されています。荘園の地を創り、中世から受け継がれてきた現在のこの風景は、絵図や日記に描かれた魅力ある農村景観へと誘ってくれるのです。</p>			
      			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名			
電 話		FAX	
E-mail			
住 所			



## 構成文化財の位置図（地図等）

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す  
(様式 3 - 1 の番号に対応させること)



構成文化財の位置図

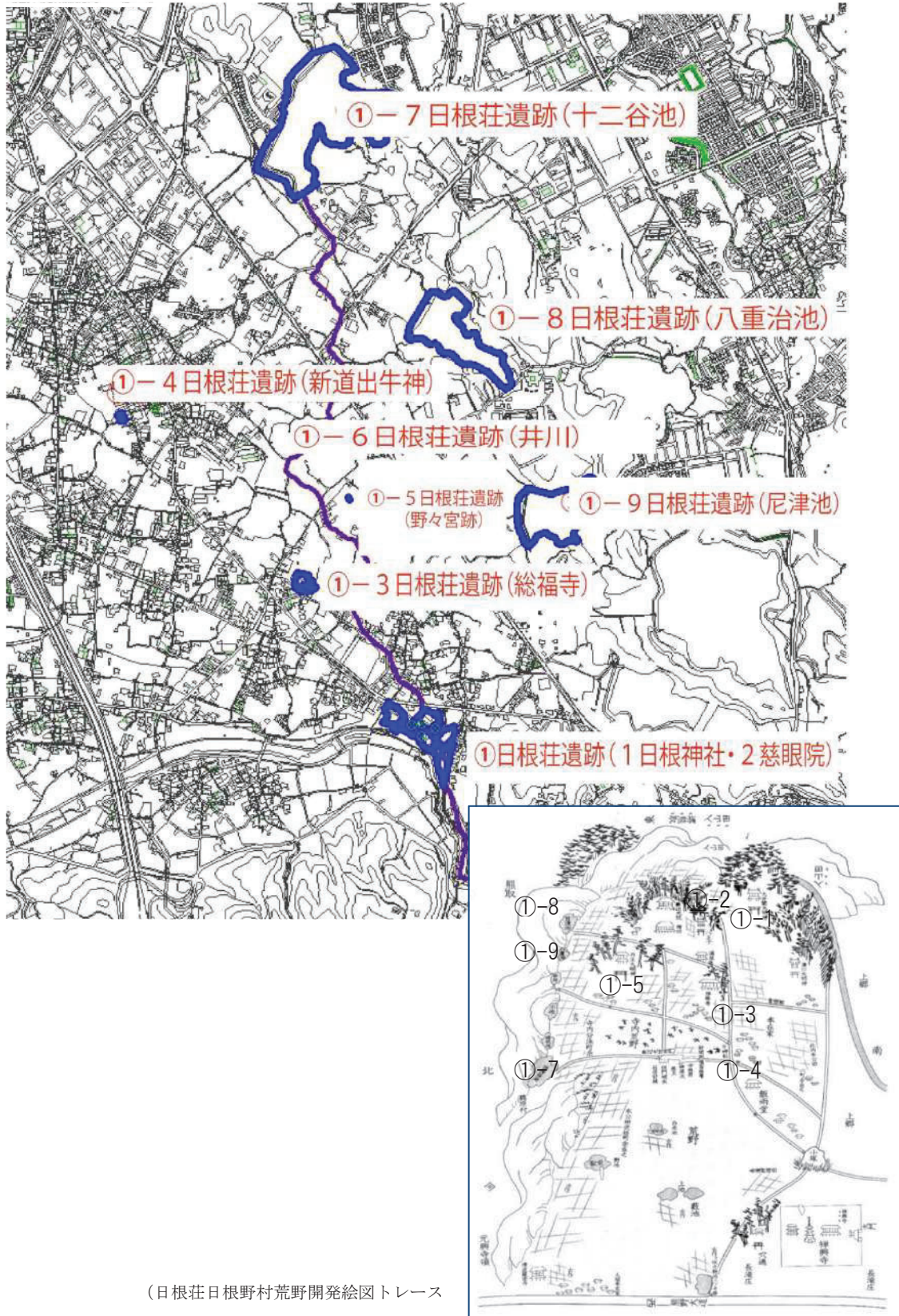
位置図 1



位置図 2



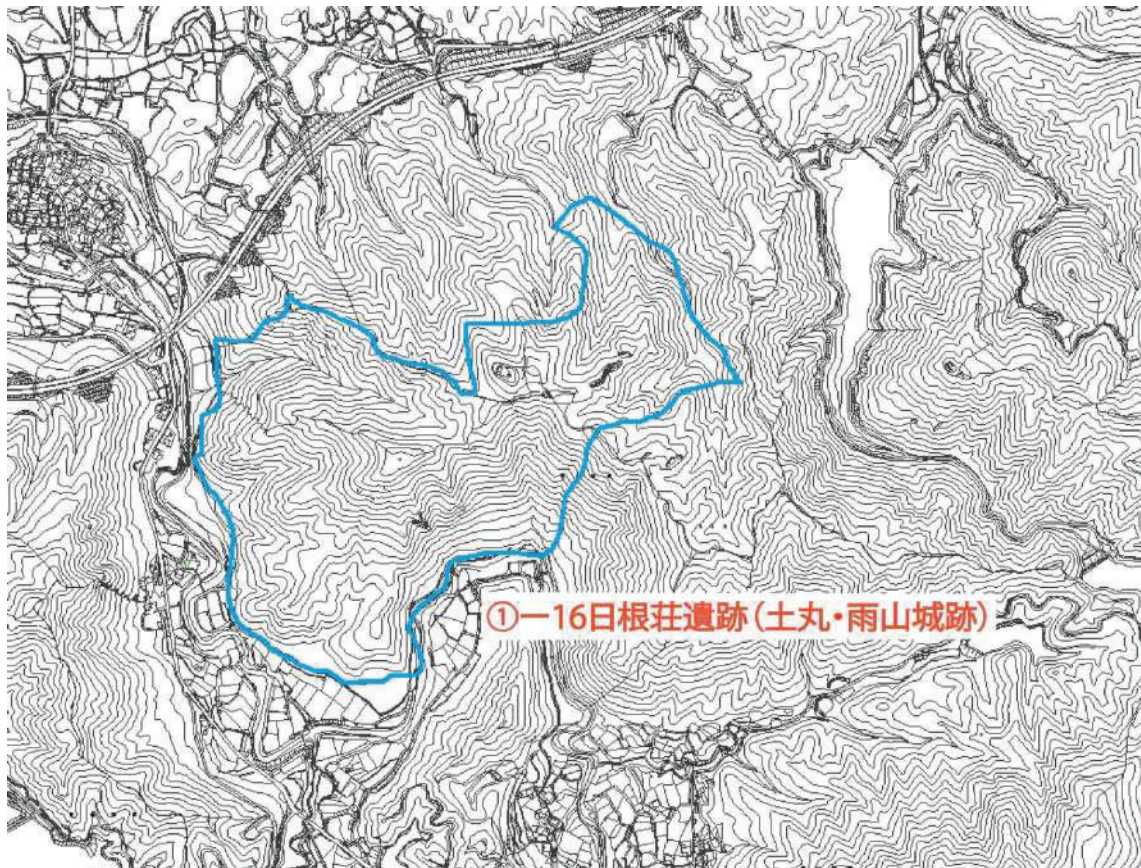
位置図 3



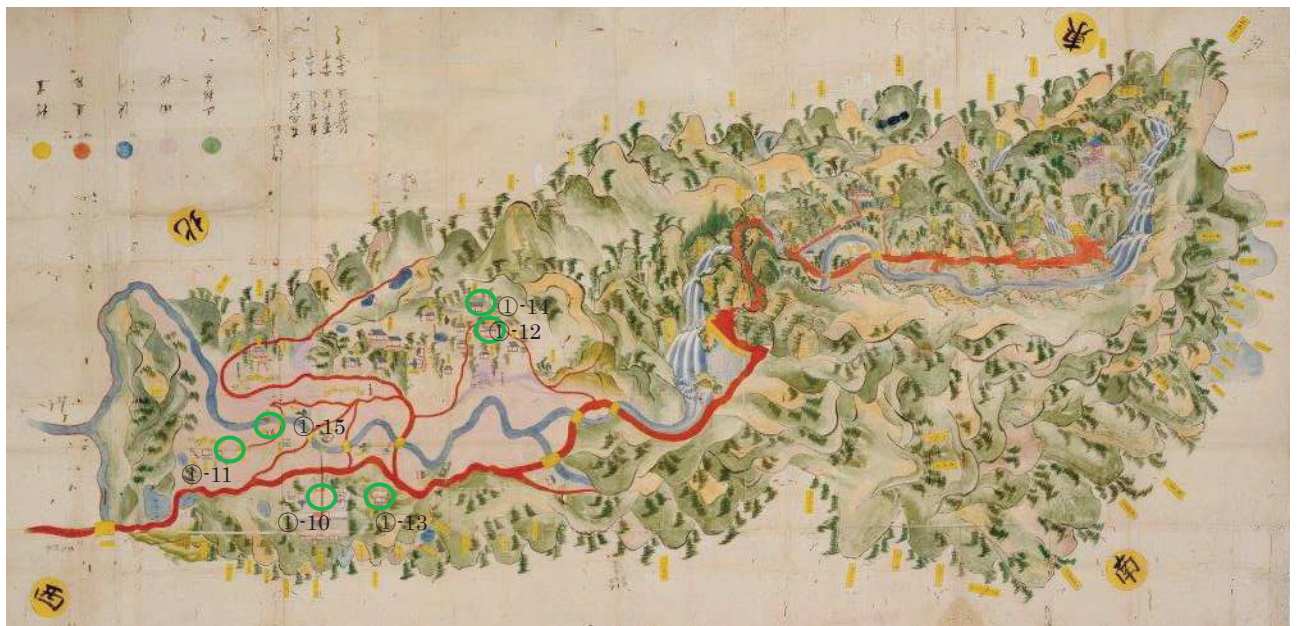
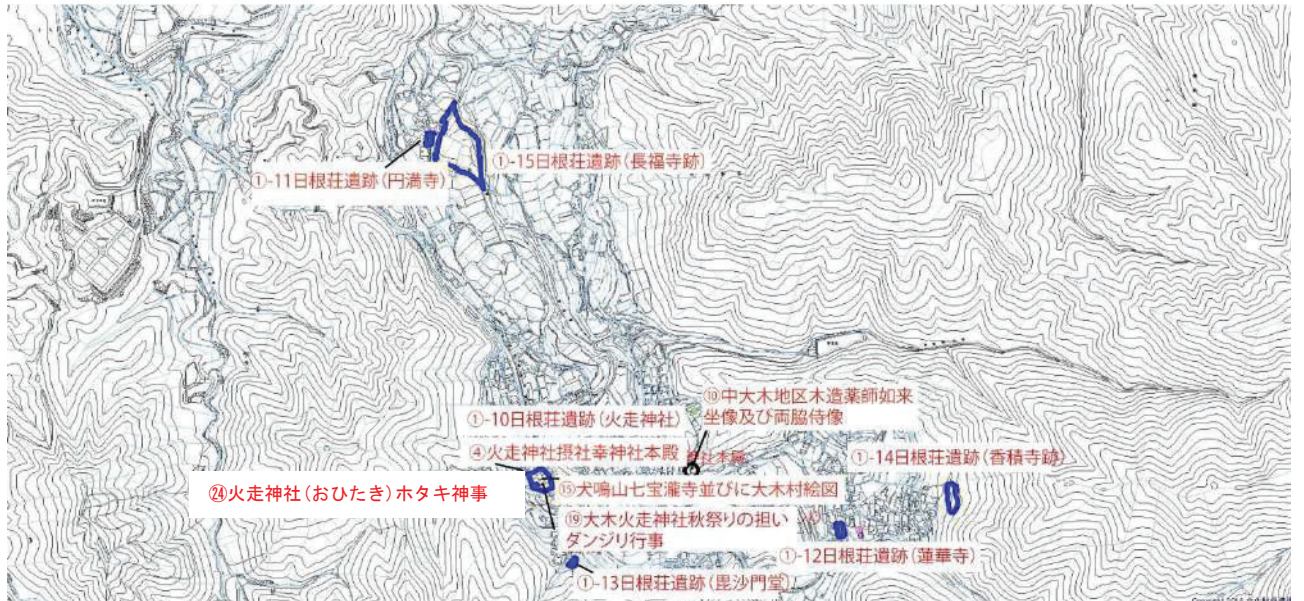
位置図 4



位置図 5

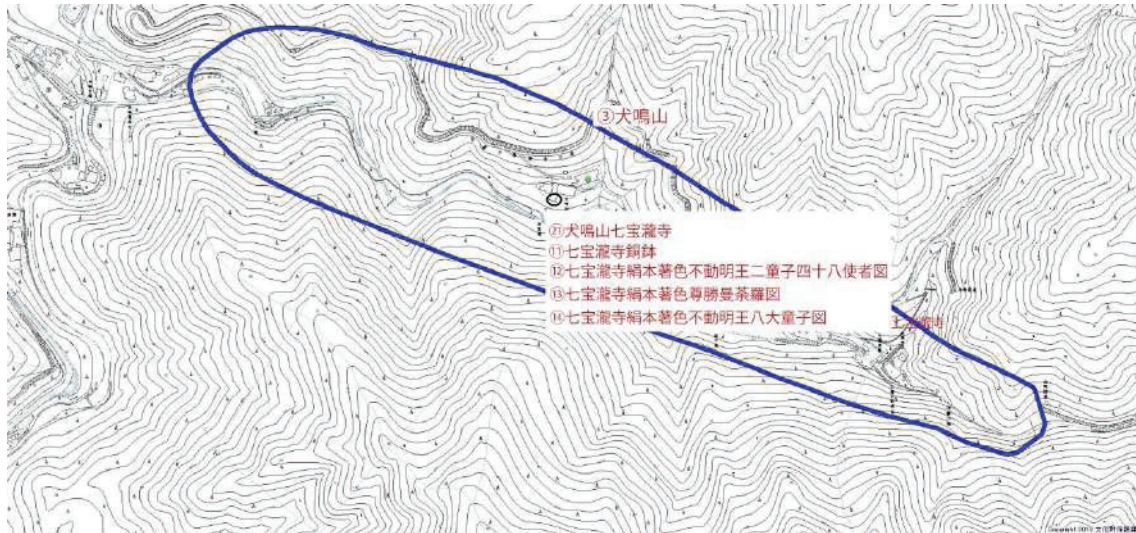


位置図 6

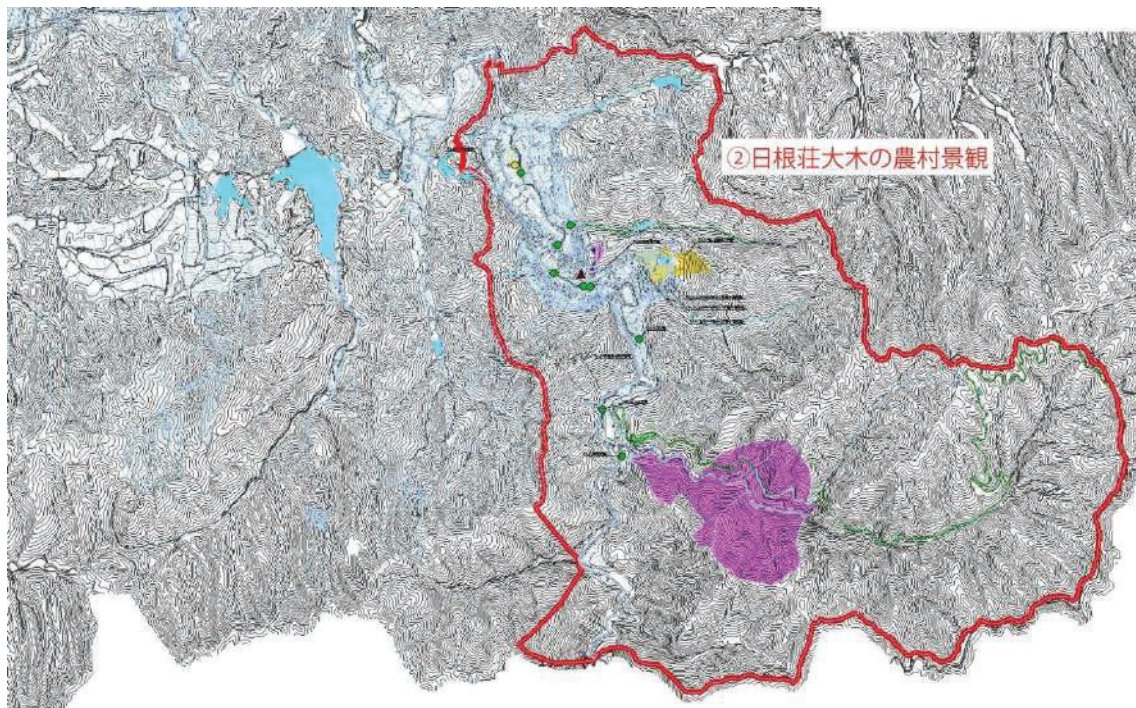


(犬鳴山七宝瀧寺並びに大木村絵図)

位置図 7



位置図 8



位置図 9



位置図 10



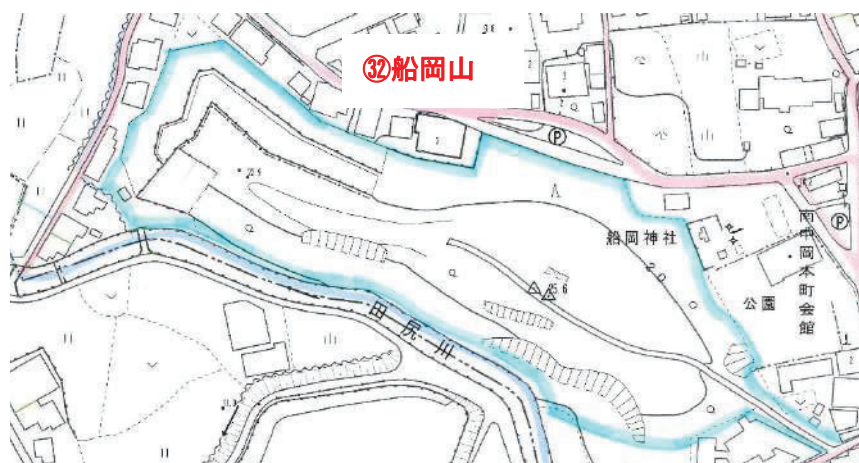
位置図 11



位置図 12



位置図 13



位置図 14



## ストーリー

日本の玄関口、関西国際空港のある泉佐野市には、約800年前、摂政や関白になった上級貴族である五摂家（近衛家・九条家・鷹司家・二条家・一条家）の1つ、九条家の治める「日根荘」とよばれる荘園があり、その範囲は現在の市域すべてに及んでいました。また、16世紀初めに記された九条政基の日記、「政基公旅引付（ひきつけ）」に描かれる世界は、大木地区の荘園時代以来の農村景観として今も息づき、訪れる人を魅了します。現地に生きる人びとの営みが絶えることなく進化し、維持されてきたこの魅力ある懐かしい風景は、どのようにして作られてきたのでしょうか。その答えの1つが、日根野地区を開発するために描かれた鎌倉時代の二枚の絵図に隠されています。

## ◆二枚の荘園絵図

1234年、日根荘が成立します。経営の一番の難題は、広大な未開地の開発でした。1309年、九条家は日根荘の土地調査に着手しますが、その際に作成された二枚の絵図にはきわめて克明に村の水路やため池、寺社などが描かれています。それらは驚くほど現存するものと一致します。

開発の主要プロジェクトが井川水路の整備でした。井川は日根神社と慈眼院の間を通り、段丘面に広がる農地を抜けながら、十二谷池まで続く全長約2.75kmを高度差わずか約3mで流れるように作られました。その緻密で大がかりな土木工事からは、村人たちの血のにじむような努力が伝わってきます。

当時作られたため池も、今なお田畑に恵の水を注ぎ、人々に実りを与えてくれます。大開発によって発展を遂げた日根荘は、九条家の所有する全国約30カ所の荘園の中で自らが開発した重要な荘園へと成長します。

では、当時の生活はどのようなものだったのでしょうか。

## ◆貴族の日記―「政基公旅引付」―

時は戦国時代。武士によって荘園経営が危うくなり始めたころ、領主である九条政基は、入山田村、当時の大木地区にあった長福寺に1501年から4年間滞在しました。

この4年間の様子や出来事を政基は日記につづっています。

## 「梅は花 松はみどりの 春の日の めぐみぞ四方に 天満る神」 政基公旅引付

梅が花開き、松が緑を色濃くする春の日の恵が四方のいたるところに満ちているのは、天満天神のおかげです。

滞在中、政基は貴族らしく連歌などを催しましたが、荘園の春色を尊ぶこの歌からは、当時の天神信仰が伺えます。総福寺に天満宮の小さなお社がたたずんでいます。

## 「風情といい、いう詞といい、都の能者に恥ぢず」

早ばつに悩まされる大木の村人たちは、滝宮（火走神社）で雨乞いの儀式を行いました。雨喜の風流



大木地区の農村景観



二枚の絵図



農地を潤す井川水路



で奉納された能は、姿かたちといい、言葉の言い回しといい、都の能に恥じないものだと政基は称賛しました。火走神社の雨乞いでも雨が降らない時は、犬鳴山七宝瀧寺で神事を行いました。

今も神社では収穫感謝の神事がおひたき(ホタキ神事)として行われています。

古来より修験道の聖地として七宝瀧寺が鎮座する犬鳴山。山号の名は大蛇から主人の命を守った義犬伝説に由来し、大阪府内では珍しく温泉郷があります。



おひたき(ホタキ神事)

### 「舞の手共、当道なほ勝劣あるべからざるものなり」

入山田村の人びとの舞の所作も都の役者と優劣つけがたいほどのものと政基は褒めたたえています。

大井関大明神(日根神社)では毎年4月2日に例祭が行われていました。そこで行われた芸能も政基はめずらしいといえます。

井川をはさんで隣接する慈眼院には日本三名塔のひとつである多宝塔が、750年の間変わることなく優雅に佇んでいます。政基は慈眼院に滞在することもありました。

今は地域の集会所になっている大木の円満寺では、外からの軍勢の襲来を、早鐘を鳴らし村中に伝えました。

資料をもとに歴史をたどると、荘園に生きた人々の軌跡が見えてきます。また、現存する当時の建造物や遺跡は今もなお、中世の面影を残し、受け継がれています。このように日根荘は、当時の支配や村人の生活、信仰の様相や開発のあり方を具体的に示してくれるとともに、中世の村の姿を迫体験できる全国でも希少な荘園の1つです。



慈眼院 多宝塔



土丸・雨山城跡

### ◆中世の息吹

中世から芸能に優れていた火走神社や日根神社での伝統的な祭りには、今も多くの人々が集まり、賑わいをみせています。ハイキングコースとして親しまれている土丸・雨山城跡は、戦乱の跡をかき消すように、木漏れ日がやさしく照らし、訪れる登山者を迎えてくれます。この山頂からは、海上に浮かぶ国際空港をバックに中世の農村景観が一面に望むことができ、その意外性がトレッカー達の人気スポットとなっています。

室町時代、全国で12ヶ所に減少した九条家荘園の中でも、日根荘は重要でありつづけました。土丸・雨山城跡の頂から望む現在の日根荘。この景色は地域の営みの中で日々変化を続けながらも、荘園の礎がしっかりと守られ続けているのです。それは、この地を創り、受け継いできた人々の息づかいなのだということを、訪れる人びとに語りかけてくれます。



まくらまつり(日根神社)



土丸城跡から望む日根荘

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状 況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財 の所在 地 (※ 4)
①	ひねのしょういせき 日根 荘 遺跡 (16ヶ所)	国史跡	地域の営みの中で日々変化を続けながらも荘園の礎を守り伝えられる中世からの建造物や景色が今に残る。	
②	ひねのしょうおおき のうそんけいかん 日根 荘 大木の農村景観	重要文化的 景観	地域の気候風土に合わせて中世から受け継がれてきた土地利用の在り方が魅了された景観を保持している。	
③	いぬなきさん 犬鳴山	府名勝	古来より葛城修験道の聖地とそこに息づく神事の継承	
④	ひばしりじんじゃせつしやみゆきじんじゃほんでん 火走神社摂社 幸 神社本殿	重要文化財 (建造物)	日根荘入山田村の総社である火走神社の摂社で、室町後期に造営された社殿が今も継承されている。	
⑤	じげんいん たほうとう 慈眼院 多宝塔	国宝 (建造物)	鎌倉時代建立。日根神社の神宮寺としての古い姿を残す。	
⑥	じげんいん こんどう 慈眼院 金堂	重要文化財 (建造物)	日根荘政所と思われる。鎌倉時代建立。日根神社の神宮寺としての古い姿を残す。	
⑦	そうふくじちんじゆてんまんぐうほんでん 総福寺鎮守天満宮本殿	重要文化財 (建造物)	久ノ木にある総福寺の境内社。本堂は天正4年(1576)に建立。旅引付に記される天神信仰が現在の天満宮でも信仰されている。	
⑧	ひねじんじゃまつしやひめじんじゃほんでん 日根神社末社比売神社本殿	大阪府指定 (建造物)	溝口大明神とも呼ばれ、農業用水の恵みを願う信仰が日根荘時代より続く。後に日根神社に合祀。	
⑨	じげんいんだいにちによらいざぞう 慈眼院大日如来坐像	大阪府指定 (彫刻)	平安時代末期、貴族の美意識にかなった彫刻様式である藤原流の系統をもつ優美な彫刻。	
⑩	なかおおぎちくもくぞうやくしによらいざぞうおよび 中大木地区木造薬師如来坐像及 りょうわきじぞう 両脇侍像	大阪府指定 (彫刻)	平安時代末期、貴族の美意識にかなった彫刻様式である藤原流の系統をもつ優美な彫刻。西光寺は七宝瀧寺の元末寺。薬師講が今も継承されている。	
⑪	しっぽうりゅうじどうばち 七宝瀧寺銅鉢	大阪府指定 (工芸)	弘安2年(1279)の銘が彫られる鑄銅製、蓋付きの鉢である。法華会の仏具と思われる。	

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑫	しっぽうりゆうじけんぼんちやくしよく 七宝瀧寺絹本著色  ふどうみょうおうにどうじしじゅうはちししやず 不動明王二童子四十八使者図	大阪府指定 (絵画)	四十八使者図を伴う不動明王を描く絵画で、日根荘に由来し、南北朝期の葛城修験の世界を伝える。	
⑬	しっぽうりゆうじけんぼんちやくしよく 七宝瀧寺絹本著色  そんしょうまんだらず 尊勝曼荼羅図	泉佐野市指定 (絵画)	金剛界大日如来を中央に、周囲に八大仏頂を配した尊勝曼荼羅図で、日根荘に由来し、南北朝期の葛城修験の世界を伝える。	
⑭	しっぽうりゆうじけんぼんちやくしよく 七宝瀧寺絹本著色  ふどうみょうおうはちだいどうじず 不動明王八大童子図	泉佐野市指定 (絵画)	両肘を曲げて持物をとる不動明王を中心に、左右に俱利伽羅龍剣と八大童子を描く図様で、日根荘に由来し、南北朝期の葛城修験の世界を伝える。	
⑮	いぬなきさんしっぽうりゆうじなら 犬鳴山七宝瀧寺並びに  おおぎむらえず 大木村絵図	泉佐野市指定 (歴史資料)	七宝瀧寺とふもとの集落の風景と取り囲む山や川などの自然景観が現在の魅力ある歴史的な情景と重なる。	
⑯	じげんいんもくぞうむねふだ 慈眼院木造棟札	泉佐野市指定 (歴史資料)	日根神社の神宮寺で、長い年月をかけて大切に維持され続け、慈眼院や日根神社の沿革を知ろうえで貴重な歴史資料。	
⑰	みなとせきしつとどえぼし 湊遺跡出土烏帽子	泉佐野市指定 (考古資料)	当時の成人男性がかぶった布製の実物。室町時代の木棺とともに出土した。	
⑱	じげんいんきょう 慈眼院こけら経	泉佐野市指定 (有形民俗文化財)	奉納される長さ30cm、幅1cmの杉板片を円筒状に束ねたこけら経は鎌倉時代の民衆信仰を今に伝える。	
⑲	おおぎひばしりじんじやあきまつり 大木火走神社秋祭りの  にな 担いダンジリ行事	泉佐野市指定 (無形民俗文化財)	泉州地域のだんじり祭の中で最も古い形態を残す伝統的な祭り。大木の生業である山師の力強い雰囲気を受け継ぐ地域色豊かな行事。	
⑳	ひねじんじや 日根神社まくらまつり	泉佐野市指定 (無形民俗文化財)	旅引付に記された春の祭礼がその起源と推定されており、行われる芸能等に感銘を受けたと記されている。	

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地(※4)
⑳	いぬなきさんしつぽうりゅうじ 犬鳴山七宝瀧寺	未指定 (建造物)	山号は大蛇から主の命を守った義犬伝説に由来し、灯明ヶ岳には経塚がある。現在まで葛城修験信仰を伝える場所。	
㉑	つちまるれんげじ れんげじ 土丸蓮花寺(蓮華寺)	未指定 (建造物)	真言宗犬鳴派。旅引付に記され、土丸城主で活躍した南朝方の橋本正督の墓石などがあり、土丸集落の歴史を語る。	
㉒	つちまるごくらくじ 土丸極楽寺	未指定 (建造物)	真言宗御室派。九条家文書に記され、修正会、法華八講などが行われ、中世以来の民衆信仰の世界。	
㉓	ひばしりじんじや 火走神社おひたき  (ホタキ神事)	未指定 (無形民俗文化財)	天からの恵みの雨は生業である農業には欠かせないもの。旅引付に記される収穫感謝、厄除けを祈願する神事が現在も継承され続けている。	
㉔	ひねじんじやほんでん 日根神社本殿	大阪府指定 (建造物)	旅引付に記され、二枚の荘園絵図にも描かれている日根荘の鎮守社。中世は井川用水を司る神社として「大井関神社」と呼ばれた。日根荘の中心的な神社。	
㉕	ひばしりじんじやほんでん 火走神社本殿	泉佐野市指定 (建造物)	日根荘入山田村の総社で、中世には瀧宮と呼ばれる。旅引付には入山田村の風流念仏や雨乞い等が火走神社で行われたと記されており、日根荘入山田村の中心的な神社。	
㉖	ありとおしじんじや 蟻通神社	登録文化財 (建造物)	二枚の荘園絵図に「穴通神社」として描かれており、熊野詣や紀貫之の故事が伝わる長滝村の総社。古くから舞殿で能が行われ、今に継承されている。	
㉗	いずみのくにひねのしょうひねのむら 和泉国日根荘日根野村 こうやかいはつえず 荒野開発絵図	未指定 (歴史資料)	正和5年(1316)に作成された九条家領日根野村を描いた絵図。ストーリーの根幹をなし、緑豊かな風景に、社寺等が記されている。	

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
②9	いずみのくにひねのしょうひねのむら 和泉国日根荘日根野村・ いはらむらこうやかいはつえず 井原村荒野開発絵図	未指定 (歴史資料)	延慶3年(1310)ごろに作成された九条家領日根野村・井原村を描いた絵図。ストーリーの根幹をなし、緑豊かな風景に、社寺等が記されている。	
③0	まさもとこうたびひきつけ 政基公旅引付	未指定 (古文書)	戦国時代、日根荘の領主であった九条政基が長福寺に4年間滞在していた時に記した日記。村の生活や人びとの様子がいきいきと記されている。	
③1	ちぬのみやあと 茅渟宮跡	未指定 (史跡)	古代の和歌の神様である衣通姫の故事が伝わる。かつては比売神社が衣通姫を祭神としていた。九条家文書にも登場し、日根荘との関りが深い	
③2	ふなおかやま 船岡山	未指定 (史跡)	荘園絵図に記される岡本にある船岡神社の境内地にあり、標高25.5mの単独峰である。日根荘の鎮守社である日根神社の由来書を記した文書から、日根神社との深いかかわりが伝わる。日根神社まくらまつりの神輿や幟渡御等が行われた。	
③3	くずわいふち 葛葉井の淵	未指定 (史跡)	長滝と上之郷の間に位し、水面約0.9a、深さ1mほどの遊水池である。古くから清水が湧き出て、約6haの水田を潤す中世由来のかんがい用水である。犬鳴山七宝瀧寺の塔の滝から葛葉を投げ入れたところこの淵に流れてたことから、地名の「長滝」の由来となったことが記される文書は「政基公旅引付」を記した九条政基によって筆写され、九条家文書に残る。	

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例: 国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

①史跡日根荘遺跡（16ヶ所）



1. 日根神社



2. 慈眼院（写真奥⑤多宝塔・写真手前⑥金堂）



3. 総福寺（⑦総福寺天満宮本殿）



4. 新道出牛神



5. 野々宮跡



6. 井川



7. 十二谷池



8. 八重治池



9. 尼津池



10. 火走神社



11. 円満寺



12. 蓮華寺



13. 毘沙門堂



14. 香積寺跡



15. 長福寺跡



16. 土丸・雨山城跡

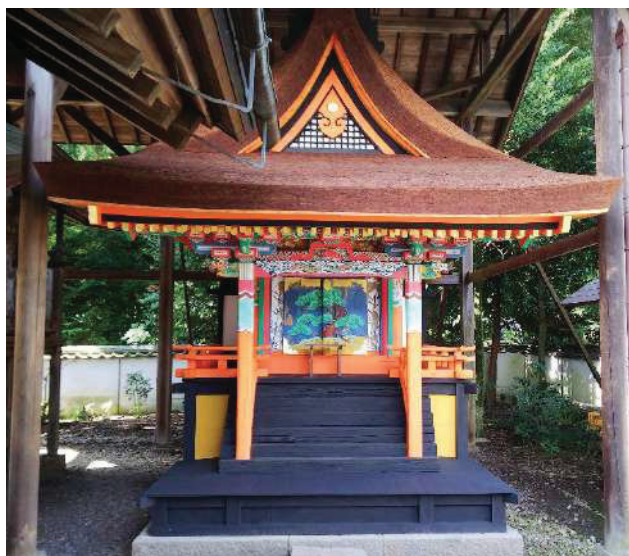
②日根荘大木の農村景観



③犬鳴山（府名勝）



④火走神社摂社幸神社本殿



⑤慈眼院多宝塔



⑥慈眼院金堂



⑦総福寺鎮守天満宮本殿



⑧日根神社末社比売神社本殿



⑨慈眼院大日如来坐像



⑩中大木地区木造薬師如来坐像及両脇侍像



⑪七宝瀧寺銅鉢



⑫七宝瀧寺絹本着色不動明王二童子四十八使者図



⑬七宝瀧寺絹本着色尊勝曼荼羅図



⑭七宝瀧寺絹本着色不動明王八大童子図



⑮犬鳴山七宝瀧寺並びに大木村絵図



⑩慈眼院木造棟札



⑪湊遺跡出土烏帽子



⑬慈眼院こけら経



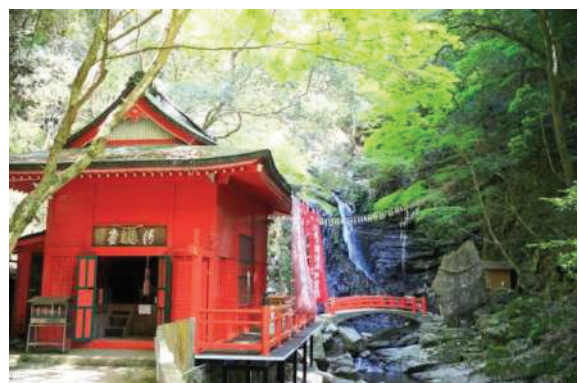
⑱大木火走神社秋祭りの担いダンジリ行事



⑳日根神社まくらまつり



㉑犬鳴山七宝瀧寺



②土丸蓮華寺



③土丸極楽寺



④火走神社おひたき(ホタキ神事)



⑤日根神社本殿



⑥火走神社本殿



⑦蟻通神社



⑳和泉国日根荘日根野村荒野開発絵図



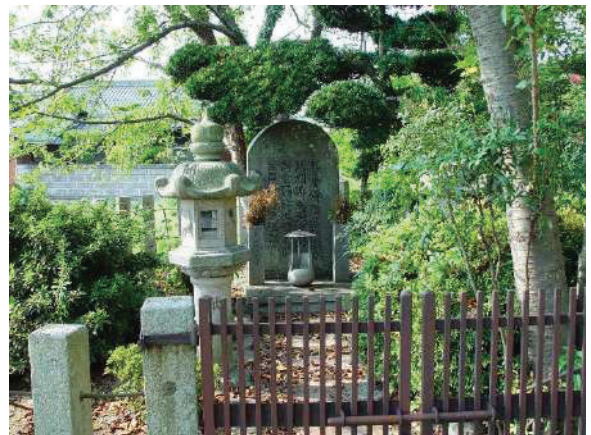
㉑和泉国日根荘日根野村・井原村荒野開発絵図



㉒政基公旅引付



㉓茅渟宮跡



㉔船岡山



㉕葛葉井の淵



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
75	旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—

## (1) 将来像 (ビジョン)

## 【総合ビジョン】

泉佐野市は、関西国際空港の玄関口であり、海から山まで人と自然の関わりの中で育まれてきた地域固有の歴史文化資源が豊富にある。そこには国宝「慈眼院多宝塔」・重要文化財「慈眼院金堂」・国史跡「日根荘遺跡」・重要文化的景観「日根荘大木の農村景観」を代表とする約 1500 件の歴史文化資源が継承されており、またそれらは本市樫井川を境にして、大阪文化と和歌山文化がぶつかり合う場所として、山車祭りの形態や音頭、建築様式に影響が見られる。

古代においては、市山間部の原生林にある犬鳴山七宝瀧寺で役行者が葛城修験を開き、中世では京都の上級貴族九条家の荘園「日根荘」の開発が行われたことが、有名な鎌倉開発絵図 2 枚の他多くの史料とともに伝わっている。九条政基の日記『旅引付』は犬鳴山七宝瀧寺を中心とした雨乞い文化や立派な能楽を演じる自立した惣村の姿を今に伝える。また、このころには現在の泉佐野市の農業都市基盤の基礎が作り上げられた。荘園文化が豊臣秀吉の太閤検地で消滅する近世になると、代わって海側の佐野浦では対馬・吉岐・五島列島に佐野漁民が進出し、在郷町の佐野町場が形成される。そこで商人文化が華開くきっかけとなったのは、豪商食野・唐金・矢倉家が北前船で動く商社として全国に名を馳せ、今の日本タオル産業の発祥の地へとつながっていく。つまり、本市には日本を代表する 3 つの日本遺産ストーリーが自然や地理に影響を受けながら相互連携し、時代により一部重層的な歴史を育んできたまちである。

そのなかでも地域型日本遺産日根荘の時代（1234 年～1500 年代）に起源をもつ肥沃な大地と池・水路など中世からの水利施設が今も現役で活躍し、九条家荘園として発展してきた農村景観は泉佐野市の原点であり、日本の原風景と言える貴重な歴史文化資源である。特に生活・農業・信仰に関わる祭りや修験・雨乞い、文芸の中心には寺社があり、荘園と水との関わりは大きなテーマとなっている。そして令和 4 年には日根野地区にある日本唯一の国史跡現役水路「井川用水」は、大阪府下の現役水路としてはもっとも古く、今に続く歴史ある水路として、世界かんがい施設遺産の登録を受けた。その他、棚田の耕作地やそこに毛細血管のように張り巡らされる水路とともに、地域に伝わる由緒ある伝統行事や祭礼などの無形文化財も、人びとのくらしの中で大切に守られ、受け継がれている。

令和 3 年 3 月には泉佐野コンベンションビューローによる『泉佐野市 MICE 戦略』も策定されている。このなかでユニークベニューやエクスカーション（体験型見学会）の発掘、犬鳴山や日本遺産、空港、海の幸、山の幸などの食文化、周辺観光資源との近接を生かすを内容として、市内関連事業者及び国内他自治体・観光団体や観光資源とのアライアンス構築が重点戦略とされた。

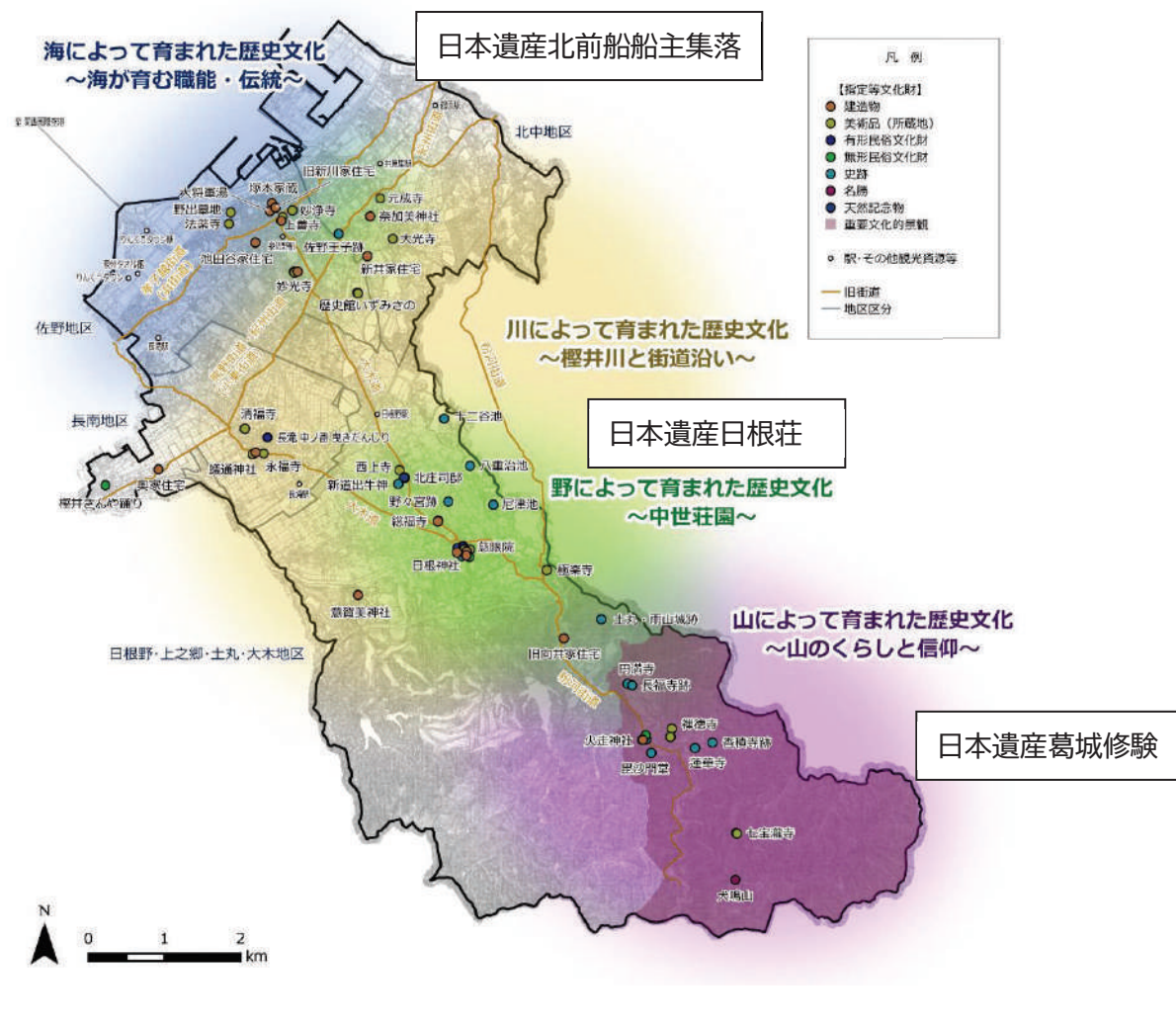
現在、日本遺産認定を受けた日根荘に対する市民の関心度は高く、『第5次泉佐野市総合計画』、令和3年策定の『文化財保存活用地域計画』に基づき施策を実施している。

文化財保存活用地域計画の策定に際しては、3つの日本遺産が海・川・野・山の地形に基づいて構成文化財群があり、地域展開する計画を特徴とし、関係部局で相互連携する取組とした。またその流れから、令和4年に「歴史文化遺産都市宣言」を宣言したところである。

関西国際空港の玄関口から30分圏内にある日本遺産のストーリーを軸に日根荘遺跡、日根荘大木の農村景観他、構成する豊富な文化財そのものに焦点をあてた中世荘園時代の姿を体験できる「魅せる農村景観ツアー」、農業と観光を組み合わせた「アグリツーリズム」、寺社にゆかりの歌や百人一首を数多く奉納した学芸意識の高い「和歌のまち」教育などの施策を中心に実行することで、他の日本遺産にはないストーリーの展開と誘客、その収益によって遺跡の保存活用とPRが運用できるまちとしたい。観光、まちづくりに寄与できるよう推進協議会・当該地域・市の関係部局、団体企業でさらなる連携を構築する。

### 【第5次泉佐野市総合計画 令和元年～令和10年】

将来像を「世界に羽ばたく国際都市 泉佐野一ひとを支え ひとを創り 賑わいを創る」とし、基本施策を地域の強みを生かし、賑わいを創り出すまちづくり「活力・賑わい」第1節観光の中で、歴史文化の保存活用、良好な景観の形成で日本遺産事業を位置付ける。



## 【地域の長期的構想（文化財保存活用地域計画）への位置付け 3つの日本遺産を歴史文化の特徴とする】令和3年7月

関連文化財群を様々な歴史文化資源、歴史的・文化的・地理的な関連性に基づき、相互に関連性のある一定のまとまりとして整理したものである。その整理にあたっては、関連性の特徴を語るテーマと、具体的な関連性を魅力的な形でわかりやすく伝えるストーリーを作成することで、個々に存在している歴史文化資源を有機的に結びつけるものである。

文化庁が近々刊行予定である「文化財保存活用地域計画作成のためのハンドブック」にも日本遺産を活用した取組み事例として本市が紹介されている。

日本遺産日根荘は、泉佐野市の貴重な歴史文化資源であると同時に、日本の中世荘園の代表であり、現在も中世農村文化の原点とも言え、世界に誇れる地域ブランドである。絵図と中世史料が今の風景と重なるだけでなく、今の生活、産業、習俗でも現役で使われるといったまさに生きた歴史を地域の人を通じて体験できる強みは、泉佐野市の人々が古い伝統を大事にするアイデンティティ、シビックプライドの高さゆえである。

今後も、文化資源の保存活用、地域経済の活性化、魅力向上・来訪者増加が重要不可欠であり、文化・観光・経済を上手く好循環させることによって、市の産業振興やシビックプライド醸成による地域活性化につながるものと考えている。施策としては、日根荘を基盤とした世界農業遺産・日本農業遺産の認定をはじめ、中世農村景観や農村体験を主とした構成文化財での農泊、農作業体験、オーガニック・有機栽培による食体験、滞在コンテンツの多言語化と、「和歌のまち」復興と学校教育の地域学習・体験など地域の核となる地域資源の活用により地域に波及効果、経済循環を促進させ、日本で唯一無二の場所になることによって、長期滞在やリピーターの増加につなげ、交流人口を増やすとともに、地域住民と観光客とのふれあいが生まれ、協力者獲得にもつながるものと考えており、本市は文化観光推進法における中核となる施設「文化観光拠点施設」の整備となるような農村を含む広く存在する古民家や構成文化財の整備活用を行うことで、文化観光を契機にした地方創生を推進し、まちづくりに寄与する取組を行っていききたい。

さらに、令和7年（2025）の大阪・関西万博開催に伴い、今後はさらに歴史的資源を活用した観光まちづくりを推進していく必要がある。広域交流として行っている特産品相互取扱協定、ふるさと逸品協定、歴史のご縁のある地域産業活性化協力協定を全国の68自治体と締結しており、万博開催期間中にそれらの自治体を集めた物産イベント「まるかじりジャパン」（りんくう地区で開催）を開催予定であり、多くの来訪者に向けて発信していく。それら地域と関西国際空港を使った市民参加型ツアーやと、日本遺産日根荘と関連した他の日本遺産認定地域が連携する「全国中世荘園サミット」（これまで6回開催。令和6年時点の連携先：大分県豊後高田市・群馬県太田市・岩手県一関市・鳥取県湯梨浜町・愛媛県上島町）「（仮称）日本遺産中世ネットワーク」（大分県豊後高田市、島根県益田市、広島県尾道市、岐阜県岐阜市等々）等との連携でさらにストーリーの磨き上げを行う。また、本市が3つの日本遺産に認定されているという強みを活かして、各日本遺産のストーリーの拠点同士の連携を進めるだけでなく、全国の日本遺産のストーリーも紹介できるような集客型「（仮称）日本遺産ミュージアム」の整備を推進している。さらに国内向けストーリーツアーの広域展開や関空周遊インバウンド向けのツアーの企画を行うことで、日本中世文化の多様な魅力を体験や食を通じて、国内外の認知度向上を図る。さらには、地域

の子どもたちの教育の一助となり、郷土愛とアイデンティティを一層高め、地域住民の保存・継承への意欲を引き出す取組を行うことで、事業者参加の機会、移住者の増といった地域への還元、有形無形の文化や自然環境の維持保全への資金を獲得できる持続可能な社会とつなげていきたい。

日本遺産日根荘は、泉佐野市ほぼ全域に広がる九条家最大の荘園で、天福2年(1234年：鎌倉時代)に成立し、葛城修験発祥の地「犬鳴山」から北前船船主集落「佐野浦」「佐野町場」に至る間に平野部に展開する中世の「生きた荘園」が連綿と残っており、現在でも残された絵図、日記、史料、祭り、習俗等から、時代によって文化財はその姿を変化させながらも地域の生活にずっと関わり続け、それを追体験できる中世日本の原風景が広がる。

令和元年度の日本遺産認定後、6年間の地域活性化計画期間においては、PR支援団体や案内ガイドの育成、PRプロモーション活動(動画・TV・YouTube)、地域ブランドの強化、ストーリーを発信するARアプリ製作ツールや漫画・資料、日本遺産ガイダンスセンター設置、案内板設置、トイレ・遊歩道・休憩スペース(ベンチ設置)整備、構成文化財の改修の他、学校教育や収益事業の取組を進めてきた。

令和元年申請時の取組は、下記の通り、すべて実施済みである。

## 1. 国内外からの受入環境の整備及び情報発信

### ①関西国際空港、鉄道主要駅、市内公共施設等での総合案内板及び多言語解説板の設置

関西国際空港を利用する旅行者に対する取り組みとして、りんくうタウン及びJR日根野駅、南海泉佐野駅周辺の宿泊観光施設や公共施設周辺にあった既存の36か所の総合案内板の更新の際に、3つの日本遺産の情報の追記を行った。

情報発信する観光案内所としては、南海泉佐野駅前の泉佐野市観光情報センター(泉佐野観光ボランティアガイドが常駐)・「泉佐野まち処」では特産品やお土産、ガイドの受付、レンタサイクル「さのちゃり」を貸出している。JR、南海りんくうタウン駅前には「りんくうまち処」がある。

また、構成文化財の多言語解説板は、観光拠点整備事業で標柱、解説版を設置。また七宝瀧寺、火走神社には令和6年度文化庁多言語化解説事業でARコード、QRコード、GPSマップなどの入った看板を設置した。

令和2・3年度には日根荘遺跡の周遊アプリ「変わらない風景」(AR、多言語)を製作した。これは構成文化財を巡ることで鎌倉開発の2枚の絵図のピースを埋めていき、荘園絵図を完成させるものである。

### ②泉佐野市ホームページ、広報誌、グッズ、配布物等での周知及び情報公開

新たに日根荘啓発資料(プロモーションポスター3枚・ちらし・ストーリーパンフレット3種・モデルコースマップ・プロモーション映像BS-TBS・YouTube映像、インスタ)の製作と配布を行い、多言語化した協議会ホームページの制作及び更新、泉佐野市ホームページ、日本遺産ポータルサイトの更新も行った。また、市報には日本遺産認定時から日

本遺産に関連したページ（「日本遺産・中世日根荘を巡る」等）があり、現在まで毎号記事の掲載を行い、泉佐野市行政情報番組さのテレ！（JCOM りんくう及び YOUTUBE での放映）に日本遺産推進担当理事が日本遺産を紹介する番組「日本遺産・中世日根荘を巡る」は現在 67 回（現在も更新中）を数える。

令和 2・3 年には日本遺産事業で子ども向け日根荘漫画『日根荘物語 意志を継ぐ者達』『日根荘物語 時空を駆ける旅引付』を製作し、文化庁地域文化財総合活用推進事業でも市民募集の「いずみさのカルタ」を製作、小学校と学校図書館・図書館・公民館に設置し、いずみさの検定等の副賞としても配布した。令和 4 年度には泉佐野の 3 つの日本遺産の構成文化財である犬鳴山七宝瀧寺を舞台にした映画『インサイドウォーター』が上映された。

令和 5 年からは泉佐野市日本遺産公式インスタグラムを開設し、泉佐野市でも部長級以上の市職員全員が X 投稿を開始し、日本遺産に関連する様々な投稿が行われている。また泉佐野市関係各課でチームをつくり、泉佐野デジタルアーカイブ事業を ADEAC 社に委託し、日本遺産に関わる写真、動画、資料を公開した。また、図書館の電子図書館にて、日本遺産日根荘のストーリーに関する資料・漫画をアップすることで、パソコン、タブレットで気軽に閲覧できるようにし、小・中学校の誰もが活用できるよう解説、推奨した。

犬鳴山に源流をもつ泉佐野の水を使った災害備蓄水やサイダーについて、日本遺産パッケージを施し、モンドセレクション金賞を受賞した。全国の被災地を応援する災害用トイレレーラーの壁面には、日本遺産ロゴマークと日本遺産日根荘を含む 3 つの日本遺産のある七宝瀧寺の写真をラッピングした。

配布物・グッズとしては、ウエットティッシュ、サコッシュ、配布袋、3 つの日本遺産関連行事を集約したリーフレット「with izumisano」、日根荘パンフレット「荘園探訪」、本遺産テーブルクロス、オリジナル泉州タオル、マスクングテープ、トラベルステッカー、アンブレラマーカ等製作し、市内外での様々な活動で配布することで日本遺産日根荘の周知に努めた。

### ③外国人・国外への情報発信

関西国際空港や観光施設において定期的に、在住外国人や観光ガイド・通訳案内士等によるインターネット交流サイトへの情報発信を実施した。また姉妹友好都市の中国山東省等との国際交流で普及啓発の一つとして日本遺産を宣伝した。

### ④日本遺産ガイダンスセンター

ストーリー全体を理解できる施設として、平成 8 年に荘園博物館として開館した「歴史館いずみさの」の一部を日本遺産のガイダンスセンターとして改修し、電子案内板や音声ガイド、動画、模型、パネル等により、訪問者の受入環境を整備した。また、上之郷中村所在の構成文化財である茅渟宮跡には、茅渟宮ゆかりの衣通姫を中心にした歴史を紹介するガイダンスセンターを設置し、新たな日本遺産の拠点とした。

⑤市内普及行事会場、日本遺産フェスティバルでの参加者への意向アンケート調査を実施し、今後の日本遺産の PR 効果の示し方の指針を検討した。

## 2. 日本遺産認定地の公開及び周遊ルートの整備

### ⑥市内各所（構成文化財所在地）での案内解説版、誘導サイン等を整備

構成文化財の案内解説版については、令和6年に追加認定された「船岡山」「葛葉井の淵」（令和7年度の実施予定である）を除く多言語化（五か国語）したプレートもしくは標柱をすべて実施済みである。

JR 日根野駅前に構成文化財茅渟宮跡と世界かんがい施設遺産を解説する案内板を設置、上之郷・土丸・大木地区にトイレ改修・新築、駐車場は大木・日根野・上之郷地区に整備を行い、樫井川かわまちづくり事業でのサイクリングロード、観光周遊バス、案内看板の検討やオンデマンド交通の試行事業の検討を行った。

### ⑦構成文化財の周遊散策（登山道・遊歩道）ルートの設定及び整備

構成文化財所在地に幟、日本遺産ベンチを設置し、滞在時間（半日～1日）を設定したルート設定を行い、大阪観光局、泉佐野市シティプロモーション推進協議会を中心にしたツアー造成を企画した。また、泉佐野観光ボランティア協会のおてくてくツアーや日根荘を知る会の現地散策でのルート設定、文化庁多言語化解説事業による案内板設置を行った。眺望点にある土丸・雨山城跡の登山道整備の改修設計を行った。

### ⑧日根荘の風景を見下ろす眺望点の設置

日根荘を見下ろす眺望点として、土丸城跡、西光寺、円満寺、大阪府営泉佐野丘陵緑地、SIS りんくうゲートタワービル 53 階を設定し、大阪・関西万博に向けた大阪府「映える大阪プロジェクト」のホームページ、インスタ等で紹介を行った。

### ⑨日本遺産のPR支援団体（案内ガイド等）の育成

協議会構成団体である泉佐野観光ボランティア協会の会員や希望する市民に、日本遺産日根荘のストーリーや構成文化財の解説、ガイドを行う上での心得といった基礎的な養成講座を認定後3年間にわたり開催した。それ以降はさらに学習機会をつなぐためのワークショップとして日根野公民館での「日根荘を知る会」を開催し、日根荘を知る会の会員や泉佐野観光ボランティア協会会員が日本遺産日根荘のガイドを行えるようになった。養成講座では、「日根荘ガイドマニュアル」を使用し、大学教授、郷土史家、ガイド案内のプロに講師を依頼した。また養成講座ではルートマップ「ぶらり いずみさの」を作成した。

### ⑩日本遺産 PR プロモーション活動の実施

令和元年度には市内、令和2年度には大阪府内でのパネル展・ワークショップを開催した。パネル展・ワークショップでは鎌倉の2枚の絵図を掛軸風にしたパネル、日根荘フォトスポット（バックボード）、ポスター、チラシ、多言語パンフレットを作成し、公共交通機関、商業施設においてPR、アンケート等も実施した。

令和元年度から現地見学会・講演会を開催しているが、令和2年度からは講演会として、全国の荘園遺跡及び文化的景観選定地との連携事業として、「全国中世荘園サミット」を開始し、現在まで継続的に開催を行っている。

令和3年度には首都圏へのプロモーションとして、全国中世荘園サミット in 東京を開催。早稲田大学名誉教授の海老澤衷先生を中心に日根荘（泉佐野市）、骨寺村荘園（岩手）、新田荘（群馬）、田染荘（大分）の各地域研究者が集まり、中世荘園の絵図、史料、景観の魅力を語っていただいた。アンケート調査ではそれぞれの現地を訪れたいという意見を多数いただいた。また、令和3年度には東京シティエターミナルの「毎日が旅行博」において「日本遺産「日根荘」パネル in 東京」を開催、3か月で7,925人の来場を得た。また日本遺産日根荘をテーマにしたPR作品を募集し、商業施設イオン日根野において作品展を開催した。

また日本遺産フェスティバルの参加の他、東京いずみさの会・東京泉佐野事務所での広報活動、特産品相互取扱協定、ふるさと逸品協定、歴史のご縁が結ぶ地域産業活性化協力協定を結ぶ全国68市町村のイベント時に、市職員の管理職でチームをつくりブース出展を行い、特産品販売とともに日本遺産の周知を実施した。

#### ⑪小学校副読本における日本遺産の掲載や学童への現地見学会の実施

小学校3・4年生の郷土学習副読本への日本遺産記事の掲載、日根荘のストーリーを分かりやすく解説した漫画本やいずみさのカルタを制作し、市内各小学校に配布、閲覧用図書の寄贈を行いました。また市内小・中・高校生を対象に日本遺産ゆかりの和歌の神様「衣通姫」イラストコンテストを行い、日本遺産の周知に努めた。構成文化財が多数存在する大木地区にある大木小学校では創立150周年に因んで京都大学・大阪観光大学と日本遺産が連携をした「まち・ひと・まなびづくりフォーラム」と題したワークショップでは日本遺産の重要性を周知し、教育関係者や子ども達に地域の歴史や文化に対する情操力を高めた。また日根野中学校の日根荘フィールドワークの講師としても参加し、日根荘についての解説を行った。

周遊ルート上にある土丸の旧向井家住宅では、大阪体育大学学生等で構成する団体「さのてら」と連携し、来訪者に地域の行事等の体験プログラムを実施した。

#### ⑫構成文化財所有者、地元住民、来訪者への啓発のためのデジタルアーカイブ・ワークショップ

これまでにワークショップ等で作成した日根荘鳥瞰図と関連写真、資料を気軽に見られるデジタルアーカイブを市役所内の観光・広報・文化財担当でチームを組織し、構築。講座や市報、泉佐野市行政情報番組「さのテレ」等で身近にある泉佐野市内の各種文化財の価値を再確認する機会とした。

#### ⑬各構成文化財については、施設の修繕や周辺環境・案内板等の整備の他、ストーリー上の重要拠点を中心に観光スポット、体験ポイントとしての活用や整備

構成文化財の修繕については、文化庁の支援のもと実施し、案内板等は泉佐野市観光協会、市役所農林水産課、寺社等の協力を得ながら整備に努めた。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：日本遺産ガイドセンターの来館者数

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	5,547	8,162	13,570	8,725	9,598	10,557

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法

日本遺産ガイドセンターとしての役割を担う歴史館いずみさのを日根荘の拠点とし、そこへ来館した人へ日本遺産のストーリーに触れてもらう。

[集計方法] 歴史館いずみさのにおいて来館者数をカウント  
 [設定根拠] 令和2～5年度に新型コロナウイルスといった不測の事態が発生したため基準値を改めて設定し、日本遺産に認定されて以降6年間の入館者数平均である7,932人とする。また、目標値は前年度の来館者数を基準に伸び率10%とする。

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-B：日本遺産特設ホームページの閲覧数

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	25,724		6,769	16,038	18,538	21,038

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法

引き続き定期的に日根荘公式ホームページの更新を続けていくとともに、広報物等へのQRコードの掲載によるホームページの周知・宣伝を進めていくことでホームページ閲覧数を増加させていく。

[集計方法] 日根荘公式ホームページのPV数 (Googleアナリティクスより集計)  
 [設定根拠] Googleの一部サービス終了に伴い閲覧数のカウントに変更が生じたため、改めて令和6年度の閲覧数を基準に毎年2,500PVの増加を目標とする。なお、令和6年度の閲覧数が令和6年9月～令和7年2月の半年間の実績値であるため、推定年間閲覧数として「13,538PV」を基準値とした。

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②-A：日本遺産講座の実施回数 (学生・一般・市外)

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	28	23	21 (見込み)	24	24	24
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>現在定期的実施している日本遺産日根荘に関わる講座を引き続き実施することで、市内外の幅広い年代の人への普及啓発を行う。</p> <p>[集計方法]「日根荘を知る会」「日根荘講座」「全国中世荘園サミット」および歴史館いずみさのでの日本遺産関連講座の年度内開催回数の合計</p> <p>[設定根拠]日本遺産関連講座を継続して実施するために、令和4～6年度間の平均実施数の24回を令和7年度以降の目標値とした。</p>					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-B：地域住民が日本遺産ストーリーを理解している割合						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	76.9	67.6	70.6	75	80	85
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>[集計方法] 地域住民への認知度調査で集計を行う。なお、令和6年度までは全国中世荘園サミットでの認知度調査を実績とした。</p> <p>[設定根拠] 令和6年度の認知度を基準に毎年度5%の増加を目標とする。</p>					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③-A：協議会の収益事業の雑入						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値			59,601	84,601	109,601	134,601
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>協議会の自走・自立を目指し、令和5年度より設置を開始した収益型自販機の設置数を増加させていくことで収入の増加を目指す。</p> <p>[集計方法] 収益型自販機における販売協力金の寄付額</p> <p>[設定根拠] 収益型自販機設置台数の毎年度一台の増加を目標に、一台の年間寄付額平均である25,000円の毎年度増加を目標値とする。</p>					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－B：泉佐野市内での延べ宿泊者数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	928,900	1,889,140	844,139	928,553	1,021,408	1,123,549
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		<p>日本遺産の活用による周遊を促進することで泉佐野市への観光客数の増加を目指し、経済効果の拡大を狙う。</p> <p>[集計方法]観光庁が発表する泉佐野市内での延べ宿泊者数</p> <p>[設定根拠]令和6年度を基準に前年度比10%の伸び率を目標とする。</p>				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：協議会が構築・運営に関わったツアーの誘客人数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値				300	330	363
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		<p>[集計方法]協議会で実施したツアーおよび協議会構成団体で実施したツアー数</p> <p>[設定根拠]令和7年度以降新たに集計するため、協議会構成団体で実施しているツアー誘客数を参考に、2025年度を基準に300人を目標値とし、前年度比10%の伸び率を目標とする。</p>				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：日根荘遺跡・日根荘大木の農村景観の入込客数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	4,344	6,107	4,954	5,454	5,954	6,454
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		<p>日本遺産日根荘の構成文化財であり国の重要文化的景観にも選定されている「日根荘大木の農村景観」で毎年度実施している「日根荘大木の里コスモス園」への入園増加を目指すことで、地域への経済効果も見込まれる。</p> <p>[集計方法]日根荘大木の里コスモス園への入園者数</p> <p>[設定根拠]令和6年度を基準に毎年度500人の増加を目標とする。</p>				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤-B：泉佐野市における外国人観光客の宿泊者数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	150,310	712,190	474,150	521,565	573,721	631,093
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>泉佐野市には関西国際空港があるため、外国人観光客への周遊促進を目指す。</p> <p>[集計方法] 観光庁が発表する外国人宿泊者数の集計</p> <p>[設定根拠] 令和6年度を基準に前年度比10%の伸び率を目標とする。</p>					

<b>(3) 地域活性化のための取組の概要</b>	
<p>日根荘という中世荘園は、宮内庁書陵部が保管する「2枚の鎌倉開発絵図と上級貴族九条家の在荘日記」という貴重な歴史資料や関連研究の数が全国の荘園の中で屈指であること、またそれらに登場する風景が、日本では中世荘園最初の国史跡「日根荘遺跡」、大阪府唯一の国重要文化的景観「日根荘大木の農村景観」、埋蔵文化財包蔵地として、現代の生活のなかに今も使用しながら守り継がれていることが特徴である。</p> <p>認定以前より日根荘は、市域全域に広がる荘園であるものの、荘園終焉の戦国期まで継続した日根野・土丸・大木地区で指定、選定のもものが集中することもあり、これら地区では調査、保存、修理を文化財部局が、また日本遺産事業は全庁的に文化財部局・観光部局・まちづくり部局等が連携しながら併行して継続実施している状況である。</p> <p>令和元年度の日本遺産認定後、過去6年間の地域活性化計画期間においては、継続して史跡・重要文化財・重要文化的景観、埋蔵文化財といった従来の調査・保存・指定の取組は教育委員会文化財保護課が『文化財保存活用地域計画』に基づき、文化庁・大阪府・地域と協議を行いながら実施し、日本遺産事業についても教育委員会文化財保護課が協議会事務局として職員を増員して担当しているが、協議会構成メンバーである観光・まちづくり部局他をはじめとして、泉佐野市が全庁的にサポート連携することで、構成文化財及び周辺ハード整備、普及啓発、情報発信の取組を推進してきた。</p>	
<p>①過去6か年の活動についての評価・課題</p> <p>2025年度以降3カ年の新たな地域活性化計画を検討するにあたり、過去6カ年の日本遺産事業のなかで用いられてきた7つの評価項目（組織整備、戦略立案、人材育成、整備、観光事業化、普及啓発、情報編集・発信）を用いて、現状の自己評価を行った。</p> <p>【効果があり、継続して実施】</p>	
<b>(2) 戦略立案</b>	

令和2年に更新された『第5次泉佐野市総合計画』では、日本遺産を含む文化財の保存・活用を基本施策として、地域の強みを生かし、賑わいを創り出すまちづくり、「活力・賑わい」第1節観光に組み込んだ。令和3年の『泉佐野市文化財保存活用地域計画』の策定の中で、3つの日本遺産の活用を位置付けた。また令和4年の『泉佐野市 MICE 戦略』でも重点施策として策定された。令和5年度ではデジタルアーカイブ・デジタルアーキビスト事業を庁内連携で発足した。

#### (4) 整備

文化庁の補助金事業として案内看板整備、構成文化財の保存・修復工事、井川・十二谷池、七宝瀧寺遊歩道整備を実施した。令和6年には民間団体の多言語化解説事業も実施した。

#### (6) 普及啓発

日本遺産日根荘推進協議会が計画する全国中世荘園サミットについて、これまで首都圏を含む6回実施し、日本遺産のストーリーを啓発した。日根荘を知る会、泉佐野観光ボランティア協会、一般社団法人泉佐野シティプロモーション推進協議会による散策、公民館講座を実施した。学校教育の連携としては、副読本に日本遺産日根荘を掲載し、日根野中学校とは毎年日根荘フィールドワークを開催。日本遺産をテーマとした漫画本を2冊刊行し、小学校4年生から中学生に無料配布し、その後はタブレットで図書館の電子図書館から漫画を閲覧できるように指導している。また、ストーリーに因んだグッズを製作し、あらゆる機会に配布を行った。

#### (7) 情報編集・発信

特設ホームページの開発・更新、日本遺産の紹介パンフレット「Sano Seeing」・「荘園探訪」、日本遺産関連行事集約リーフレット「with」の製作、配布を行った。令和5年度からはInstagramと、泉佐野市部長級以上の職員によるX投稿にてほぼ毎日日本遺産事業に関わる情報を発信している。また、泉佐野市行政情報番組さのテレは貝塚市以南の泉南地域のJCOMケーブルで放映されているが、さのテレ内で毎月放映されている番組「日本遺産を巡る」は、日本遺産担当理事が毎月自ら現地を巡って解説を行う番組で、日本遺産認定後から欠かさず放映されている。

#### 【一部課題があり、ボトムアップが欲しい部分】

##### (1) 組織整備

今後は、地域プロデューサー、団体、企業、銀行、旅行者等の協議会参画を行い、ボトムアップを図る必要がある。

##### (3) 人材育成

今後新たな分野でのツアー造成、体験事業に連携できるガイドの養成、地域ごとのキーマンとなる人物の掘り起こしが必要である。

#### (5) 観光等事業化

一般社団法人泉佐野シティプロモーション推進協議会（DMO）の富裕層向けツアーの企画・造成、北前船拡大交流機構と東急メディア・コミュニケーションによるモニターツアーを引き継いで、ツアー販売やストーリーを分かりやすい形で新たなツアー造成してもらえ企業とマッチングし、協議会に収益化を図る仕組みを検討する。

#### ③次の3か年に向けた本協議会の重点戦略

協議会で数度の議論を重ねた結果、本市が認定されている3つの日本遺産である日根荘、葛城修験・北前船は、海から山まで市域全体に広がる国内でも特異な歴史地理環境があり、それらの連携は、『泉佐野市文化財保存活用地域計画』でもまとめた通り、地域の歴史文化への理解と愛着を促すとともに、現在の農村風景に繋がることを風景や体験コンテンツにより楽しみながら知ることができる「京都貴族が愛した日本中世の村 日根荘」としてのイメージを国内外に定着させる取組を実施することとした。次頁はそれをまとめたものである。

## 旅引付と2枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景— 令和7年度から令和9年度 6つの重点戦略

### 魅力的なサブストーリーを分かりやすく解説できる地域人材インタープリター養成 と再訪化の取組

- ・2枚の絵図と『旅引付』を解説、これまでなかった九条政基の在荘日記『旅引付』5冊の口語訳が令和6年度でようやく完成し、それを初めて公開する予定である。戦国時代の農村集落と現在の風景を重ね合わせ、絶景ポイントの設定やロケ地の誘致を行う。
- ・茅渟宮跡の衣通姫、蟻通神社の紀貫之、長福寺跡の荘園領主九条政基らの和歌に関連した小学校を中心とした学校教育で日本のこころを伝える取組「和歌のまち 泉佐野」の実施。
- ・インバウンドを含めた来訪者が散策した場合、中世農村の話、和歌の歴史や文化を相手の求めに合わせて分かりやすく伝えられ、寄り添える多言語地元ガイドを養成、収益化する。
- ・観光ボランティアガイドや鉄道会社と連携したガイドウォーキング、健康登山ハイキングを継続的に実施し、直接ストーリーに触れることで、中世の風景を体感してもらう。

### 中世農村を体験できる着地型観光の充実と定着、定住促進につながるアグリツーリ ズム（グリーンツーリズム・エコツーリズム）創出と定着

- ・地域特有の文化を体験・食べ物を味わい、自然に触れ合える地域が宿泊、温泉、レストラン等を運営したり、六次産業に携わることで、収入源の増加、空き家を活用した定住者の増加が見込まれる。他にも旅行者が自然豊かな農場や農村で休暇を過ごすファームステイ、体験農園、星空観察や郷土料理づくり食体験、釣り、農泊等
- ・大木地区棚田における景観・遊歩道整備を行い、地域と文化財・農林水産部局とが連携し、オーガニック栽培とその収穫作物を販売、小中学校はそれを購入してオーガニック給食として地域に還元できる仕組みづくり、スマート農法等先端技術を活用する農法
- ・シェアサイクル等自転車、バイクを活用したコンテンツ、2次交通の充実、ふるさと納税の活用、荘園オーナー制度の導入等
- ・構成文化財の世界かんがい施設遺産「井川用水」、構成文化財「日根荘大木の農村景観」を中心にした「(仮)樫井川流域の荘園水利システム」を2026年世界農業遺産・日本農業遺産申請をめざし、さらなる農業ブランド化を図る。

### 地域の雇用促進と観光振興による収益化が、日根荘遺跡・日根荘大木の農村景観の 地域活用・整備に還元する仕組みづくり

- ・本市のふるさと納税、企業版ふるさと納税、クラウドファンディングを活用した収益化の仕組みを構築し、構成文化財の整備費用に充てる。

## 日根荘のさらなる普及啓発促進、ブランディングと地域のシビックプライド醸成・来訪者の知る機会の創出

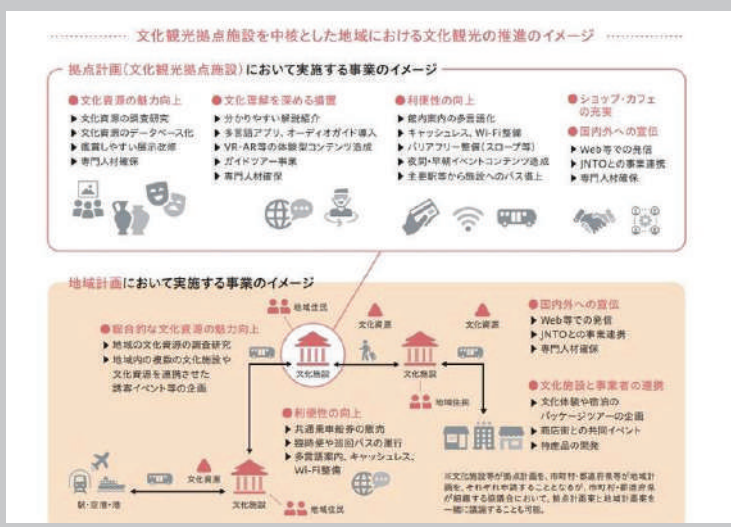
- ・犬鳴山修験道の行場体験や大阪・関西万博にも出展する担いダンジリ行事・日根神社まくら祭り・五社音頭等、全国でも他に類を見ない独特で多彩な祭りを体験する機会を創出する。
- ・日本遺産日根荘のストーリーの核となる構成文化財について、発掘・文献・現地調査等により掘り起こした追加認定を行い、また登録文化財、指定文化財等の指定を行うことで、地域のブランド価値を高め、地域独自のものとして認識してもらう。

## 関西国際空港の玄関にある3つの日本遺産の地域連携・広域連携

- ・日本遺産日根荘（地域型）、日本遺産葛城修験（シリアル型）、日本遺産北前船（シリアル型）で市域連携を行い、他地域の日本遺産と人材交流やツアー造成等連携し推進する。
- ・歴史のご縁のある自治体と連携を図ることで、世界とつながる国際空港を起点として日本遺産同士相互補完し合う関係を構築する。

## 3つの日本遺産をガイドするミュージアムと観光拠点設備等の面的な連携

- ・日本遺産日根荘（地域型）、日本遺産葛城修験（シリアル型）、日本遺産北前船（シリアル型）すべてをガイドする施設を設置し、関西国際空港、りんくうタウン、南海 JR 主要駅と歴史館いずみさの（日本遺産ガイドセンター）等の観光拠点施設、民間施設を充実させ、面的に周遊する仕組みを構築する。
- ・荘園が分かりづらい、3つの日本遺産連携が十分ではない、関西国際空港に近いが新型コロナウイルス感染症の影響もあり近年は日本遺産日根荘への訪問客は少なかったが、増加するポテンシャルがあることから、文化観光推進法に基づく地域計画の策定を検討する。拠点を つくることによって、見えづらい遺産が可視化され、3つの日本遺産の拠点同士を連携でき、インバウンドにもアピールしやすくなる。



#### (4) 実施体制

協議会の名称：日本遺産日根荘推進協議会

会長：西納久仁明副市長、副会長：奥真弥教育長

##### 《実施体制》

##### ・泉佐野市

市長公室政策推進課長・行財政管理課長、生活産業部まちの活性課参事・農林水産課長、都市整備部長（道路公園課・都市整備課）、教育部長、日本遺産推進担当理事、

##### ・民間団体等

歴史館いずみさの（指定管理者：公益財団法人大阪府文化財センター）、大阪観光大学名誉教授 中尾清、泉佐野市観光協会、一般社団法人泉佐野市シティプロモーション推進協議会（観光DMO）、大木まちづくり協議会、泉佐野観光ボランティア協会、泉佐野市観光協会

##### 《アドバイザー》

名古屋商科大学ビジネススクール教授 小山龍介、一般社団法人北前船交流拡大機構上席研究員 中野秀治、トキトキ堂 大西淳浩、早稲田大学名誉教授 海老澤衷、大阪観光局マーケティング部長 砂野智司、大阪府教育庁文化財保護課文化財企画グループ制度総括主査 三好英樹、大阪府都市計画局、大阪府環境農林部 大阪府泉州農と緑総合事務所、同志社大学政策学部教授 野田遊、

##### 《民間団体等》

大阪観光局（DMO）、一般社団法人泉佐野シティプロモーション推進協議会（観光DMO）、歴史街道推進協議会、まちづくり法人バリュー・リノベーションズさの、泉州KIXコンベンションビューロー、公益財団法人大阪府文化財センター、泉佐野市観光協会、犬鳴山観光振興会、NPO法人泉州佐野にぎわい本舗、まくら祭り保存会、大木棚田協議会、大木まちづくり協議会、泉佐野商工会議所青年部、大木町内会、土丸町内会、日根野町内会、上之郷町内会、長滝町内会、大井関環境整備ボランティアたもつ会、茅渟宮保存会、大木鬮山会、NPO法人コミラボ、NPO法人みんなまち隊、みんなまち村、NPO法人WAをつなぐ、泉佐野市立大木小学校、泉佐野市立上之郷小学校、泉佐野市立日根野小学校、泉佐野市立長南小学校、泉佐野市立日根野中学校、泉佐野市立長南中学校、大阪府立日根野高等学校、大阪府立佐野高等学校、大阪府立佐野工科高等学校、泉佐野中央ライオンズクラブ、泉佐野市青少年指導員連絡協議会、ちぬうみ創生神楽、じもっと合同会社、泉佐野市地域通訳案内士協会、ダイドードリンコ株式会社近畿営業部、株式会社むか新、有限会社北庄司酒造店、大阪府建築ヘリテージマネージャー協議会、合同会社ほろ酔いカレッジ、株式会社紀州ふるさと創研、南海ウイングバス南部株式会社、玉津島神社（和歌山市）、関空エアポートオペレーションサービス株式会社、近畿日本ツーリスト和歌山支店、日本旅行、empathetic group 庵符、上方講談会、山本浩之（フリーアナウンサー）、琴平メイ（ハープ奏者）、奥沙織（インフルエンサー）、家田莊子・塚地武雅（泉佐野観光大使）、和歌の聖地・和歌の浦誕生千三百年記念大祭実行委員会

## 《教育機関》

大阪観光大学、京都大学、大阪公立大学、同志社大学

## 《ワークショップ等》

泉佐野市役所デジタルアーカイブチーム（広報・観光・文化財・学校）

## 【実施体制の整備】

令和元年より6月より泉佐野市で組織している「日本遺産日根荘推進協議会」は、関係各課と民間団体で各取組に関する協議を行う場であり、事務局は教育委員会教育部文化財保護課が行っている。今後は、協議会に民間団体の参画も視野に入れたボトムアップの体制、日根荘及び3つの日本遺産に関わる広域的な地域間連携の仕組みを構築していく。

## [人材育成・確保の方針]

### ・観光ボランティアガイドの継続養成

日本遺産日根荘の構成文化財の魅力とストーリー情報を発信し続ける人材を確保するため、日根荘を知る会、観光ボランティアガイドの育成、その他企業を含めたワークショップ、現地見学を継続して実施する。内容としては、養成講座、歴史散策、他の日本遺産ガイド同士の交流や講師交流により連携強化や他地域のガイド技術のスキルアップを図り、日本遺産に関してガイドの意見交換の機会を創出する。

### ・学校教育との連携

市内小学校に関しては4年生以上の地域学習の副読本に日本遺産日根荘のストーリーを採用し、日根荘の校区である日根野中学校の1年生を対象にタブレットを使用した大木地区フィールドワークを実施している。また、衣通姫の茅渟宮跡のある地域である上之郷小学校を中心に、市内小中高校生を対象とした衣通姫イラストコンテスト、和歌ワークショップ、コンテスト等を開催してきたが、それに加えて蟻通神社のある長南小学校、荘園領主の九条家が仮住まいした長福寺跡がある大木小学校等と、今後は和歌の浦周辺等他地域との連携も視野に入れて交流機会を創出し、日本遺産の普及啓発を図るとともに、新たな地域のシビックプライドを醸成する。

### ・大学との連携

構成文化財の周遊ルート内にある市指定文化財旧向井家住宅は、観光拠点施設として改修作業を実施しながら、現在、全国てらこやネットワーク「泉佐野てらこや「SANOTERA」」に参加する大阪体育大学の学生が世代を超えた学びをつくる教育の場として活用している。また、大阪観光大学と泉佐野市とは令和4年に連携協力に関する協定を締結しており、観光人材としてツーリズムプロデューサー養成課程に日本遺産担当他が参加する交流事業やインバウンド関連の様々な取組を行い、連携強化を図っている。

### ・民間団体との連携

株式会社むか新は、本市の北前船船主集落内でかつて営業し、豪商食野家がもち米等で

つくった「むらしぐれ」は岸和田藩主に献上され、その製法は株式会社むか新に引き継がれており、大阪府、和歌山に展開する菓子屋チェーンである。ここでは社員教育として、大木地区の棚田でもち米を田植えから収穫まで行い、収穫したもち米を北前船構成文化財にちなんだ最中「いろは蔵」の皮につかい販売し、ふるさと納税の返礼品にも採用されている。

また、市内で1軒の酒造会社北庄司酒造店では、日本遺産日根荘の田んぼ（日根野地区）で収穫した山田錦を使って昔ながらの製法でつくった「しょうのさとシリーズ特別純米生原酒大阪産山田錦」を開発、「酒米からつくるお酒造り」としてクラウドファンディングを実施し、企画運営はほろ酔いカレッジ、日根荘酒米栽培は農業法人泉州アグリ、大阪府泉州農と緑の総合事務所、日本遺産日根荘推進協議会事務局の官民連携でつくった大阪産（もん）「びせいぶつの聲（こえ）」を北庄司酒造の協力で作り、販売を行っている。

他には、令和5年よりダイドードリンコ株式会社の収益型自動販売機で日本遺産事業に支援いただける取組を行い、市内企業の協力ものと現在5台設置完了、協議会収益としている。

#### （5）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産認定後は、引き続き情報発信や普及啓発、受入環境整備などの基盤整備を重点的に実施し、日根荘が日本遺産であることを広く周知し、認知度向上に向けた取組を行う。そうすることで日根荘の風景が日本の誇りであることを地域が認識し、また外部の受入環境を整えてもらうことにつながるよう取り組む。

自立的運営に必要な経済的基盤づくりを行い、日本遺産日根荘推進協議会が持続的、安定的に運営していくことが可能となるように努める。例えば、ふるさと納税の返礼品、クラウドファンディングによる調達資金や、協議会ホームページにおける広告収入、アグリツーリズム等ツアーガイド収入やガイド収入を協議会の運営に充てる仕組みを検討し実践する。そのために年次計画的な自主財源収益額の確保について、以下の取組を推進し、その後協議会の取組みに賛同する機関・団体・企業・個人などに広く参画あるいは協力を呼びかけ、協議会の構成メンバーや運営形態などについてより良い姿への見直しを随時行っていく。

1. 地域リーダーを育成し、自主的及び継続的な組織体制を構築する。
2. 多言語ツアーガイドを育成し、収益事業をツアー造成とつなげる。
3. 観光庁・文化庁の支援事業やSMBCグループ等持続可能なまちづくり、公民連携の推進に向けて、「大阪のまちづくりランドデザイン」に基づき、様々な分野での企業連携によるまちづくり、公民連携パートナーシップの構築に向けた取組を推進する。
4. モニターツアーなどが観光DMO法人や旅行業者とマッチングし、ブラッシュアップしたツアーを造成し、協議会に収益につながる取組を推進する。
5. 日本遺産商品やツアーパッケージ等の開発を行う。構成文化財等の保護やイベント等に対するクラウドファンディング等を実施する。

## (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

日本遺産日根荘は元来観光地ではなく、中世荘園研究として有名な場所である。また国宝慈眼院多宝塔・重文金堂を除けば、構成文化財の建造物は近世、近代に改修されているが、その他の構成文化財は地域の生活の中でいまだ現役で使用される農地、水系、集落、祭り、習俗であり、それらは中世の名残を多く残している。

中世由来の日根荘故地の文化財は、現在も使用されているものばかりで、荘園遺産として見えづらいという弱点が大きく、それをどう克服するかを検討しながら事業に取り組む必要がある。

### 【改めて観光・地域活性化マネジメントの必要性】

わかりやすい魅力あるストーリー、誰もをひきつける内容を心掛ける。国内ターゲットは知的好奇心旺盛な年配層、教育旅行などの小中学生・家族連れに対して文化・スポーツ食育を「貴族（九条家）」「棚田」「雨乞い・祭り」等をフックに誘客する。

また、海外ターゲットとしては、京都・奈良にはない日本の中世文化を宿泊・食・農業体験、滝修行などを通じて短期団体型インバウンド・中長期滞在個人型インバウンドをいざなう。

どちらも本市は最大の利点である関西国際空港にもっとも近いつながりを活かし、空港からの誘客を促進する。

### 【新たな組織整備】

地域型の利点を活かして市全庁的な取組を推進し、様々な関係機関を協議会に取り込み、ボトムアップを図る。また、プロデュースできるエリア開発法人・企業や地域民間プレイヤーを創出する。

### 【新たな戦力立案】

地域コンセプトとして、令和7年度に世界農業遺産保全計画を新たに策定し、世界農業遺産・日本農業遺産をめざす。長期的戦略やその他まちづくり戦略は、3つの日本遺産に特化した『泉佐野市文化財保存活用地域計画』（令和3年）に基づくが、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づく「拠点計画」を作成し、3つの日本遺産のあるまち泉佐野を新たな戦略としたい。

### 【新たな人材育成】

地域民間プレイヤーのもと観光事業化、普及啓発、情報発信を行う。

### 【環境整備として景観・仕組みづくり】

解説版整備・道路標識等へのロゴマーク掲載、構成文化財の修理・活用・運営を推進する。構成文化財、景観眺望できる場所の保存、整備を引き続き行う

### 【新たな観光等事業化】

棚田やため池、水路、城跡などの構成文化財をウォーキングやトレッキングでつなぎ、新たに農業体験でストーリーの体験をしてもらう取組や収穫したオーガニック野菜の食育、や宿泊事業・農泊事業の開発・運営に努める。あらたな6次産業の創出を行う。

観光DMO一般社団法人泉佐野シティプロモーション推進協議会、泉州KIXコンベンションビューロー・企業・団体と協議会、通訳ガイドが連携し、着地型体験ツアーの企画・検証・販売・運営を行い、日本遺産のストーリーをパッケージ化し、体験・食の人とのつな

がりを創出する。

**【新たな普及啓発】**

荘園文化、和歌教育等の総合学習の時間を活用した日本遺産ストーリーの体感・探求、地域での高い認知度形成のための既存イベント・新規イベントの調整、SNSによる各種活動の発信を推進する。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	推進協議会の体制強化		
概要	日本遺産日根荘推進協議会では、地域活性化計画の円滑な実施のため、取組の実行を担う協議会の体制整備・強化を行う必要がある。また自立・自走に向け、観光事業化、財源確保の仕組を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産事業の持続的推進体制の構築	協議会を定期的開催、活動状況を共有し、民間事業者、ワークショップの参画を図ることで、裾野を広げた協力体制の強化を図る。	事務局
②	役割分担の明確化	日本遺産事業の活動を円滑に行うため設置した協議会事務局において、取組内容を企画・検討し、関係部局との連携体制を推進する。	事務局
③	自立に向けた財源確保の取組	協議会が継続的に事業を推進していくため、ふるさと納税、クラウドファンディング、民間事業者からの寄付金、協賛金など財源確保の仕組みを構築する。その財源をもとに文化財保存、景観維持、PR活動などに活用できるようにする。	事務局 民間事業者
④	民間事業者が参画した協力体制の整備	連携協定を締結した民間事業者のノウハウや協働で実施する。取組ごとの会議を開催し、連携強化し協力体制を整備する。	事務局 民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	実施事業数		132件 (目標なし)
2023			188件 (目標なし)
2024			187件 (目標なし)
2025	同上		188件
2026	同上		189件
2027	同上		190件
事業費	2025年度：8,700千円 2026年度：9,135千円 2027年度：9,613千円		
継続に向けた事業設計	協議会の体制強化をすることで、他機関の事業実施も含めてオール泉佐野市で地域を活性化する方向を継続する。		

(事業番号 1-B)

事業名	各種連携事業の推進		
概要	日本遺産日根荘の事業では、文化財部局を中心に事務局運営しているが、教育分野はもとより、農林水産・観光商工労働・福祉等すべての分野で日本遺産日根荘の連携を推進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	庁内別分野及び民間団体との連携推進	行政・地域・団体・企業・学校等すべての分野において、オール泉佐野市で事業連携を引き続き推進する。特に企業の物販事業、農林・給食センターのオーガニック連携事業の連携を図る。	協議会
②	日本遺産葛城修験・北前船関連事業との連携推進	日本遺産日根荘が市域全域に展開する中世を中心に、古代から現在まで続く犬鳴山葛城修験、江戸時代の北前船船主集落、3つの日本遺産が存在する。またそれらが3つ重なる犬鳴山七宝瀧寺もあり、3つのストーリーを相互連携させた体制づくり、仕組づくりを推進する。	日本遺産日根荘推進協議会 葛城修験日本遺産活用推進協議会 北前船日本遺産推進協議会
③	全国中世荘園サミット連携の推進	全国の中世荘園にかかる国史跡・重要文化的景観を保持、または関連する自治体との連携について、サミットや検討会の取組、保存活用手法の共有、共同事業・PR事業等の実施体制を推進する。	協議会 各自治体
④	(仮称) 日本遺産中世ネットワーク連携の推進	日本遺産 104 ストーリーの中で、日本の中世に焦点を充てた協議会(例えば、大分県豊後高田市・島根県益田市等)と連携し、情報共有、ガイド養成・講座事業の連携等を推進する。	協議会 日本遺産連盟の各協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	実施回数		11件(目標なし)
2023			16件(目標なし)
2024			13件(見込 目標なし)
2025	同上		14件
2026	同上		15件
2027	同上		16件
事業費	2025年度: 200千円 2026年度: 300千円 2027年度: 300千円		
継続に向けた事業設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会に参画する部署、団体が中心となり、各分野のルール作り、情報発信を継続して実施する。</li> <li>・サミット、ネットワーク等の連携するにあたって、明確な目的、ルール作り、参画の調整をしっかりと行う。</li> </ul>		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	戦略立案と共有の取組		
概要	日本遺産日根荘の事業を推進するにあたり、様々なレベルでの戦略立案が必要で、協議会、協議会委員のグループ会議等によって戦略立案を行う。その際、日本遺産プロデューサーやアドバイザー人材の派遣も利用し、中長期的な戦略を確立する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産日根荘推進協議会の実施体制の強化	地域活性化計画の目標に向けて、協議会の実施体制を強化するため、定期的に外部からアドバイザー等の人材を招聘し、作業部会を設定し、情報共有するとともに、課題の抽出や魅力創出のための対策を検討する。	協議会 民間事業者
②	各種行政計画への位置づけ促進	市が策定する行政計画等へ日本遺産に関する事項を位置付けるとともに、更新、見直しにあっても日本遺産に関する事項を記載してもらう。	協議会 泉佐野市
③	世界農業遺産・日本農業遺産等の保全計画への位置づけと推進	日根荘の特徴である農村景観、営農など日本遺産のストーリーを背景とした里山集落があり、荘園を起因とした世界農業遺産の認定を目指し、保全計画を策定し、地域活性化、六次産業の推進を行う。	協議会 民間事業者
④	ストーリーの明確化・サブストーリーの創出	農業体験、アニメ等分かりやすいストーリーの周知、「和歌のまち 泉佐野」のサブストーリーの創出を行い、発信し、日本遺産ストーリーの理解の幅を広げる。	協議会 民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	各種会議の開催数		1件（目標なし）
2023			3件（目標なし）
2024*			3件（目標なし）
2025	同上		4件
2026	同上		4件
2027	同上		4件
事業費	2025年度：6,465千円 2026年度：6,465千円 2027年度：6,465千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産事業の実施のため、協議会等のPDCAサイクル確立に向けて定期的な会議を開催、取組状況、連携強化の推進につなげる。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	観光ボランティアガイドや日根荘を知る会等の地域団体の育成		
概要	地域プレイヤーの創出、育成のため、観光ボランティアガイド、日根荘知る会等地域団体による日本遺産		
	取組名	取組内容	実施主体
①	個人、民間事業者と連携したガイドイベントの実施	観光 DMO 法人、観光協会、鉄道会社、歴史街道倶楽部、歴史館いずみさの(日本遺産ガイドセンター)等と連携して、観光ボランティアガイドによるコース設定、日本遺産のストーリー、サブストーリー及び歴史的魅力を発信、周遊促進を推進する。	協議会
②	地域団体である日根荘を知る会の活動を推進	荘園地域の住民で集まった団体に日本遺産ガイド講習を修了した人を加えた「日根荘を知る会」は、現在総勢 68 名、日根野公民館で活動している。観光ボランティアガイドと連携したウォーキングイベント、講座、社会福祉バザーに参加する等、地域の歴史を支える活動を推進する。	協議会
③	NPO 法人・地域プレイヤー等の農村景観での体験学習の場の提供	NPO 法人、地域プレイヤーを中心に、中世荘園を感じられる農村農業体験を実施、小学校からインバウンドまで、里山の活動、郷土料理、自然散策等、中世荘園を背景にした郷土文化を学ぶ機会を提供する。	協議会
④	民間事業者と連携した出前講座や勉強会の実施	民間事業者と連携した様々な出前講座を実施し、日本遺産を PR していく。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	観光ボランティアガイド及び日根荘知る会の延べ活動数(人)		136 人(目標なし)
2023			133 人(目標なし)
2024			127 人(目標なし)
2025	同上		130 人
2026	同上		140 人
2027	同上		150 人
事業費	2025 年度：100 千円    2026 年度：100 千円    2027 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	地域のウォーキングガイドの実施にあたっては、観光ボランティアガイドの活動、座学での地域学習では日根荘知る会、学校・公民館への出前講座により広く周知・発信し、周遊を促進させる。		

--

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	構成文化財及び周辺の保存・活用整備		
概要	協議会を中心に史跡日根荘遺跡、日根荘大木の農村景観と関連した構成文化財と周辺設備の保護と改修工事等の整備を実施することで、地域の郷土愛が高まり、日本遺産のストーリー、サブストーリーの理解を深めることができる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	国・大学・地域連携した指定・登録・選定文化財の追加	地域とともにあらゆる日根荘の文化財を掘り起こし、調査することで、市文化財保護審議会の審議を受け、国指定史跡、国登録文化財、重要分的景観の追加を行う。	協議会
②	大学等学校と連携した構成文化財、日本遺産のストーリーの活用	これまで連携した大学や小中高の学校と連携した様々な取組を行うことで、日本遺産のストーリーの活用を促進し、持続可能な取組を行う。	協議会
③	博物館ミュージアム、観光拠点施設の整備、便益施設の充実	3つの日本遺産が理解できる施設の整備、地域のストーリーを深める観光拠点の整備、駐車場、トイレ、休憩施設の改修を実施する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産関連の保存・整備個所数（年毎）		10件（目標なし）
2023			2件（目標なし）
2024			5件（目標なし）
2025	同上		5件
2026	同上		6件
2027	同上		7件
事業費	2025年度：2,500千円 2026年度：2,500千円 2027年度：2,500千円		
継続に向けた事業設計	構成文化財の保存・活用に重点をおいて、地域に新たな魅力を引き出し、活性化する基盤をつくり、大学、審議会の学術的な審議を受けて、市内外の人々の理解につながる取組を実施する。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	観光ボランティアガイド・日根荘を知る会を活用した着地型観光促進		
概要	観光ボランティアガイドと観光DMOが連携することにより、日本遺産ストーリーの周知、構成文化財の誘客を推進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	観光ボランティアガイドとの連携	通常ガイドに加えて、日本遺産のストーリーに特化した内容のガイド説明を行うよう周知する。多言語については通訳士とも連携する。	協議会 民間事業者
②	構成文化財への誘客	構成文化財を周遊するコースを検討し、構成文化財周辺へ誘客する仕組みを推進する。	協議会 民間事業者
③	ウォーキングイベント、旅行商品の造成	観光ボランティアガイドと連携して、ウォーキングイベントを開催、また旅行者、観光DMO法人と旅行商品の企画、実施する。	協議会 民間事業者
④	ふるさと納税等の財源確保	ふるさと納税等の寄付、協賛を得るためにツアー造成、商品の販売と観光事業を結び付け、その収入を協議会の財源とする。	協議会 泉佐野市 民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	観光ボランティアガイドの活動数		9件(目標なし)
2023			7件(目標なし)
2024			6件(目標なし)
2025	同上		7件
2026	同上		7件
2027	同上		7件
事業費	2025年度：300千円 2026年度：300千円 2027年度：300千円		
継続に向けた事業設計	構成文化財へ周遊させるために観光ボランティアガイドにより、日本遺産のストーリーを来訪者(インバウンド)に分かりやすく解説し、再訪してもらえる仕組みを構築し、その周辺も活性化することで収益化が図れる。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-B)

事業名	日本遺産関連商品開発事業		
概要	日本遺産のエリアの特産品、農産物、手工業製品を中心に日本遺産ストーリーを活用した物販商品の開発に向けた取組を促進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産関連商品の開発	日本遺産エリアの特産品、農産物、タオル製品等を日本遺産のストーリーと関連付けて、新たな関連商品を開発する取組を推進する。	協議会 民間事業者
②	日本遺産関連商品の普及促進	日本遺産エリアの日本遺産関連商品のブランド化を普及する。	協議会 民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産に関連する商品開発及びロゴマーク使用 商品数（累計）		7件（目標なし）
2023			8件（目標なし）
2024			10件（目標なし）
2025	同上		11件
2026	同上		12件
2027	同上		13件
事業費	2025年度：300千円 2026年度：300千円 2027年度：300千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産商品の販売により、周知、収益化が図られ、3つの日本遺産の魅力を増進する。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-C)

事業名	3つの日本遺産が生んだコンテンツ造成と周遊事業		
概要	日根荘、葛城修験、北前船船主集落の日本遺産のストーリーを体験型キラコンテンツとし、着地型観光を定着させる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日根荘の農村景観と農業観光コンテンツの開発	観光 DMO 法人、地域と連携し、農業体験、自然体験、温泉等観光コンテンツとして、ストーリーとともに周遊できる仕組みを促進する。	協議会 民間事業者
②	構成文化財に見られる奉納和歌を学校教育に取り込み、関連する日本遺産とともに周遊ツアー造成を実施	協議会、学校、日本遺産和歌の浦と連携し、衣通姫に関連した和歌教育を実施し、構成文化財「茅渟宮跡」、観光拠点施設「衣通姫ガイダンスセンター」を中心に周遊させ、ストーリーの理解促進、誘客を促進する。	協議会 民間事業者
③	豪商の佐野町場、修験体験の犬鳴山七宝瀧寺と日根荘3つを周遊したモニターツアーを実施した経験を活かし、ブラッシュアップしたツアー造成を創出	3つの日本遺産を観光ボランティアガイドといっしょに巡る1日、半日で周遊できるモニターツアーを造成した経験を活かし、ブラッシュアップした民間事業者のツアー造成を促進させる。	協議会 民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	観光ツアー造成、実施の数(モニターツアー含む)		10件(目標なし)
2023			8件(目標なし)
2024			6件(目標なし)
2025	同上		6件
2026	同上		6件
2027	同上		7件
事業費	2025年度:1,500千円 2026年度:1,500千円 2027年度:1,500千円		
継続に向けた事業設計	構成文化財への来訪者が増加することで、地域の周辺の来訪者が増加し、消費が活発になり、地域の活性化につながる。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

	分かりやすく楽しい日本遺産ストーリーの普及啓発		
概要	誰もが分かりやすい日本遺産の内容を様々なツールを活用し解説する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	全国中世荘園サミット 他講座の開催	日根荘について普及啓発するサミットを原則泉佐野市で行い、関連自治体でも相互開催をめざす。また、日本遺産エリアとそれ以外の地域にも講座等による普及啓発を行う。	協議会
②	日本遺産日根荘誘客プロモーション事業	日根荘の里コスモス園において、農村景観を体験し、自然と歴史豊かな中世以来の里山を感じてもらえるプロモーションに取り組む。	協議会 大木まちづくり推進協議会
③	啓発冊子・日本遺産グッズによる周知	日根荘漫画、旅引付口語訳等いろんな人に親しみがもたれ、わかりやすい内容で普及啓発することで、現地にいきたくなるようなきっかけづくりに努める。	協議会
④	地域の祭り、行事の体験	大木担いダンジリ行事、日根野まくら祭り等、人手不足などの課題もあり、体験プログラム化により普及啓発を行う。	協議会 実施団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	講座・イベントへの参加人数		438人(目標なし)
2023			492人(目標なし)
2024			239人(目標なし)
2025	同上		300人
2026	同上		300人
2027	同上		300人
事業費	2025年度：2,500千円 2026年度：2,500円 2027年度：2,500千円		
継続に向けた事業設計	認知度向上につながる無関心層を取り込むためのアプローチとする。また、高齢化が進む里山のにぎわいづくりとして、きれいな農村景観と人が集う祭りに重点を置きたい。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	日本遺産情報発信事業		
概要	日本遺産の魅力をより多くの人に知ってもらうために日本遺産特設ホームページや SNS・リーフレットを使ったイベントの告知を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	HP における情報発信	協議会及び日本遺産ポータルサイトにおいて、日本遺産の様々なイベント情報をタイムリーに発信する。また、多言語対応努める。	協議会
②	SNS における情報発信	協議会にて SNS (インスタグラム・エックス・フェイスブック) と市 HP、LINE、観光協会、観光 DMO 法人が相互連携し、積極的に閲覧を促す仕組みを構築する。	協議会
③	日本遺産動画、さのテレ等市情報番組、YouTube を使った地域 PR	既存の日本遺産動画、毎月更新される市の情報番組さのテレ、YouTube を使って、若年層のターゲットを獲得する。	協議会
④	商業施設、市内イベントでの日本遺産広報紙の配布・掲示	地域案内『荘園探訪』、3つの日本遺産エリアでのイベントを集約した『WITH』を定期的に発行し、来訪者を誘客する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	情報発信回数 (累計)		—
2023			—
2024			73,008 回 (目標なし)
2025	同上		80,000 回
2026	同上		90,000 回
2027	同上		100,000 回
事業費	2025 年度 : 900 千円 2026 年度 : 900 千円 2027 年度 : 900 千円		
継続に向けた事業設計	既存の情報媒体と関連する団体の情報媒体を相互にリンクさせ、幅広く一斉にタイムリーな情報発信を行うことで、周知、来訪者が情報を得やすい環境をつくる。		